OOK NEWS from MARUZEN-YUSHODO

2025.10.02 作成

2025年9月新聞書評に掲載された本



世界は団地でできている〜映画のなかの集合住宅 70 年史〜(集英社新書 1275)

団地団、稲田 豊史、大山 顕、佐藤 大、妹尾 朝子、速水 健朗、山内 マリコ 著 集英社

戦後の住宅インフラを支えてきた団地が登場する「団地作品」について語るイベント を開催してきた集団=「団地団」が、団地作品の歴史を通覧。社会、風俗等のさまざ まな観点から戦後社会の変遷とフィクションの役割を考察する。

2025:8./ 237p 978-4-08-721375-1 ¥1,089〔稅込〕



産経新聞 2025/09/07



松本清張の女たち

酒井 順子 著

新潮社

お嬢さん探偵、黒と白のオールドミス、不倫の機会均等...。松本清張が女性誌で書い た小説群に着目。そこに登場する女性主人公たちを考察し、「昭和に生きた女」の変 遷を映し出す。『小説新潮』掲載に書き下ろしを加えて書籍化。

2025:6./ 240p 978-4-10-398511-2

¥1,870〔稅込〕



産経新聞 2025/09/07



ガラスと雪のように言葉が溶ける~在日韓国人三世とルーマニア人の往復書 簡~

尹 雄大/イリナ グリゴレ 著

大和書房

自国の言葉を話せない在日韓国人三世のライターと、自分の子供と異国の言語で話す ルーマニア人の文化人類学者が、自らのルーツと言語、そして言葉で表現できないア イデンティティと身体感覚について語り合う。

産経新聞 2025/09/07

2025:7./ 191p 978-4-479-39456-3 ¥1,760〔稅込〕



- ●ご注文の際には、タイトル・出版社名・価格のほか、ISBN も併せてお知らせください。
- ●原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ●ご注文、ご照会は弊社本・支店・営業部(課)までお申し付けください。
- ●表示価格は 2025 年 9 月時点での税込み価格です



大統領に告ぐ~硫黄島からルーズベルトに与ふる書~

門田隆将 著

産経新聞出版

昭和 20 年 3 月。硫黄島で日本の海軍司令官が米国大統領ルーズベルトに手紙を書いた。翻訳した兵曹、英文と和文を腹に巻いて突撃し、死して米軍に届けた通信参謀。彼らの意思と行動の理由を明らかにするノンフィクション。

2025:8./ 318p 978-4-8191-1458-5 ¥1,870〔税込〕



産経新聞 2025/09/07



<食べ方>の文化史~宮廷の作法が社会のマナーとなるまで~

治部 千波 著 教育評論社

カトラリーの使い方、料理の切り分け、配膳、給仕の方法…。ヨーロッパの人びとは <食べ方>をどのように変化させていったのか? 宮廷の饗宴からレストランでの食 事、庶民の会食にいたるまで、その歩みを追う。 2025:7./ 256p 978-4-86624-120-3 ¥2,420〔税込〕



産経新聞 2025/09/07



浮世絵のみかた

上杉 隼人 編 フランク・ロイド・ライト 著

作品社

20世紀を代表するアメリカの建築家、フランク・ロイド・ライトが遺した、浮世絵にまつわる評論とエッセイをまとめる。日本で収集し、アメリカに持ち帰った作品のカラー図版 96 点も収録。

2025:7./ 203p 978-4-86793-102-8 ¥2,970〔税込〕



産経新聞 2025/09/07、朝日新聞 2025/09/27



本が読めない 33 歳が国語の教科書を読む〜やまなし・少年の日の思い出・ 山月記・枕草子〜

かまど/みくのしん 著

大和書房

32歳で読書を始めた男、みくのしんの次なる挑戦は国語の教科書! 宮沢賢治「やまなし」、清少納言「枕草子」など 4 冊を、友人と楽しく会話しながら読む。

2025:7./ 317p 978-4-479-39455-6 ¥1,760〔税込〕



産経新聞 2025/09/14



海洋性

城戸朱理 著

思潮社

黒潮の流れが変わったので 魚たちは外洋を悠々と泳ぎ 燈台から銀鱗でざわめく入り 江を 見ることができなくなった(「シジフォスの神話」より) 城戸朱理による詩集。 「火山系」と同時刊行。

産経新聞 2025/09/14

2025:8./ 123p 978-4-7837-4620-1 ¥2,750〔税込〕





「風の谷」という希望~残すに値する未来をつくる~

安宅 和人 著

英治出版

都市集中型社会のオルタナティブは可能か? 自然、インフラ、エネルギー、ヘルスケア、教育、食と農…。データに基づき、様々なテーマをゼロベースで問い直し、壮大なビジョンを提示する。

2025:7./ 912p 978-4-86276-350-1 ¥5,500〔税込〕



産経新聞 2025/09/14



戦前エキセントリックウーマン列伝

平山亜佐子 著

左右社

男装のバンカラ陶彫家、芸と神秘に憑かれた女…。偉業と異業を成し遂げた戦前の女たち 20 人の生き様を、愛を込めて描いたノンフィクション。メールマガジン『ROADSIDERS' weekly』連載を加筆し書籍化。

2025:7./ 310p 978-4-86528-474-4 ¥2,420〔稅込〕



産経新聞 2025/09/14



トーヴェ・ヤンソン~ムーミン谷の、その彼方へ~

冨原 眞弓 著

筑摩書房

トーヴェ・ヤンソンは、なぜムーミン物語を描いたのか。あのユートピアに込められた思いはなにか。いったいかれらは、誰なのか。ヤンソン研究の第一人者による評伝。

2025:7./ 427p 978-4-480-83908-4 ¥3,300〔税込〕



産経新聞 2025/09/14、朝日新聞 2025/09/27



関係人口の時代~「観光以上、定住未満」で地域とつながる~(中公新書 2868)

田中 輝美 著

中央公論新社

関係人口の増加で都市と地方はどのように変わり、個人のライフスタイルにどんな影響があるのか。関係人口研究の第一人者が、全国の事例をもとに、現状と具体的な課題、実践に向けたヒントを示す。

2025:8./ 256p 978-4-12-102868-6 ¥1,056〔税込〕



産経新聞 2025/09/14、日本経済新聞 2025/09/20



殺し屋の営業術

野宮 有 著

講談社

凄腕営業マン・鳥井は、深夜のアポイント先で刺殺体を発見する。金で殺人を請け負う「殺し屋」に口封じとして消されそうになるが、「あなたは幸運です。私を雇いませんか?」と、鳥井は商談を始めて...。

産経新聞 2025/09/21

2025:8./ 277p 978-4-06-540330-3 ¥2,145〔税込〕





介護未満の父に起きたこと(新潮新書 1098)

ジェーン・スー 著

新潮社

82歳の父が突然ひとり暮らしに。唯一の家族である娘は、あえてビジネスライクに サポート。日々体力と記憶力が衰えていく父のケアに奔走した著者が、「介護前夜」 の5年間を綴る。『波』、WEB『考える人』連載を加筆修正。

2025:8./ 222p 978-4-10-611098-6 ¥990〔税込〕



産経新聞 2025/09/21



昭和 女たちの食随筆(中公文庫 き 47-2)

木村衣有子 編 中央公論新社

林芙美子、野上彌生子、向田邦子ら、昭和に活躍した女性の文章家たちによって、食 はどのように語られてきたのか。戦前から戦後まで、時代を映し出す食の風景を、執 筆年代順に味わい豊かな文章で辿る。

2025:8./ 249p 978-4-12-207692-1 ¥1,100〔稅込〕



産経新聞 2025/09/21



アルツハイマー病の一族~病を受け継ぐ遺伝子と医師たちの闘い~

ジェニー・エリン・スミス 著

原書房

コロンビアの山奥に若年性アルツハイマー病が遺伝する一族がいる-。この驚くべき 遺伝病の真相を追い始めた医師たちはやがて、世界初の認知症治療薬の開発をめざし て医学史の一歩を踏み出し…。知られざる 40 年の闘いの記録。

2025:8./ 423p 978-4-562-07563-8 ¥3,080〔稅込〕



産経新聞 2025/09/21



アニメ聖地移住(インターナショナル新書 161)

千葉 郁太郎 著

集英社インターナショナル

アニメの舞台になった場所を巡る"聖地巡礼"にとどまらず、移住する人が増えてい る。この"聖地移住"が、現代人のライフスタイルや地域再生においてどのような意味 をもつのか、その実態に迫る。

2025:8./ 253p 978-4-7976-8161-1 ¥1,166〔稅込〕



2025:9./ 1181p

978-4-86011-606-4

¥8,800〔稅込〕

産経新聞 2025/09/21



新刊めったくたガイド大大全〜1978|2023〜

北上次郎 著

本の雑誌社

本を紹介することに人生を捧げた書評家が、恋愛、ミステリー、SF、ハードボイル ド、ノンフィクションとジャンルを超えて、1978年~2023年の3458作品を紹介。 「本の雑誌」連載を単行本化。

産経新聞 2025/09/21



「お静かに!」の誕生~近代日本美術の鑑賞と批評~

今村 信隆 著

文学通信

近代的な美術の鑑賞と批評は、「声」や「語らい」を外側へと追いやることで、自らの輪郭を定めることができたのではないか。明治期以降の日本に的を絞り、美術鑑賞や美術批評の場における声と語らいについて考察する。

2025:8./ 456p 978-4-86766-093-5 ¥2,970〔税込〕



産経新聞 2025/09/21、毎日新聞 2025/09/27



後宮〜殷から唐・五代十国まで〜(角川新書 K-494)

加藤 徹著

KADOKAWA

小都市なみの規模を持つ巨大な密室、後宮。3000 年以上も存続に成功した、公的な外廷政治と密室的な内廷政治の二本立てという中国式国家システムから、中国史をひもとく。

2025:9./ 403p 978-4-04-082533-5 ¥1,430〔税込〕



産経新聞 2025/09/28



羊殺しの巫女たち

杉井 光著

KADOKAWA

早蕨部村で、未年にのみ行われる祭り。巫女に任命された 6 人の少女たちは、祭りの日、慣習に隠された本当の意味を知る。12 年後、その習わしを壊すため彼女たちは村に集うが、山で死体が発見され…。ホラーミステリ。

2025:8./ 397p 978-4-04-115127-3 ¥1,980〔税込〕



産経新聞 2025/09/28



夏井いつきの「凡人俳句」からの脱出(NHK 俳句)

夏井 いつき 著

NHK出版

"キラリ"と光り、選に残る俳句は何が違うのか? 「NHK 俳句」への投稿句を解剖し、「凡人俳句」とは何か、類想類句とは何かを分析。誰もが実践できる発想と推敲の秘訣を公開する。

2025:8./ 159p 978-4-14-016288-0 ¥1,650〔税込〕



産経新聞 2025/09/28



大奥の権力者松島〜田沼意次と共に活躍した将軍の懐刀〜

畑 尚子著

ミネルヴァ書房

春日局の台頭以降、将軍世子の生育の役割だけでなく、幕府の運営に深くかかわって きた大奥。田沼意次とともに徳川家重・家治に重用された大奥将軍付女中・松島の生 涯を描く。 2025:7./ 264p 978-4-623-09929-0 ¥3,080〔税込〕



産経新聞 2025/09/28



#東京アパート

吉田 篤弘 著 角川春樹事務所

隣の天使から届けられる悪魔のケーキ。ベランダに置かれた大きな桃…。東京のアパートで暮らすさまざまな人びとの夢やさみしさ、ささやかな幸福と奇跡を描く物語。 『Web ランティエ』連載を単行本化。 2025:7./ 341p 978-4-7584-1490-6 ¥1,980〔稅込〕



産経新聞 2025/09/28



失われたバンクシー~あの作品は、なぜ消えたのか~

ウィル・エルスワース=ジョーンズ 著

青幻舎

世界で最も有名なアーティストの一人であり、誰よりも物議を醸し続けるバンクシー。バンクシーの作品のうち、売られ、盗まれ、あるいは破壊されて消えてしまった作品を貴重な写真を交えて収録する。

2025:8./ 143p 978-4-86152-989-4 ¥2,970〔税込〕



産経新聞 2025/09/28



一比較文学者の自伝<上>

平川祐弘 著

飛鳥新社

戦前、戦中、戦後。日本で、そして世界で、学び、教え続けたわが人生。比較文学者・平川祐弘が、日本で受けた教育、最後の「洋行」世代の留学生活などを綴る。 『Hanada』『ひらく』連載に加筆。 2025:7./ 698p 図版 16p 978-4-86801-099-9 ¥5,500〔税込〕



産経新聞 2025/09/28



一比較文学者の自伝<下>

平川祐弘 著

飛鳥新社

戦前、戦中、戦後。日本で、そして世界で、学び、教え続けたわが人生。比較文学者・平川祐弘が、米・仏・英など海外でも教えた教授生活、歴史家としてのありようなどを綴る。『Hanada』『ひらく』連載に加筆。

2025:7./ 554p 図版 16p 978-4-86801-100-2 ¥4,999〔税込〕



産経新聞 2025/09/28



鎌倉ビーチ・ボーズ(角川文庫 き 7-43)

喜多嶋 隆著

KADOKAWA

鎌倉・由比ケ浜にある浄泉寺。住職だった父に代わり、息子の凛太郎が継いでいるが、寺の運営に無関心な彼はアルバイトの僧侶を雇い、サーフィンを楽しむ日々。だがある日、身体中キズだらけの女子高生が寺に駆け込んできて...。

朝日新聞 2025/09/06

2015:10./ 282p 978-4-04-103460-6

¥704〔税込〕 !! !!! !!!! !! !!! !!!!!!





ムーミン谷の冬 新版(講談社文庫 や 16-23)

トーベ・ヤンソン 著

講談社

冬眠からひとり目ざめたムーミントロールは、初めて見る雪にびっくり。パパの水浴び小屋に住むトゥーティッキやご先祖さま、美しくも恐ろしい氷姫など、冬の世界のいきものたちは、わけのわからない、へんなやつらだらけで…。

2025:6./ 222p 978-4-06-539847-0

¥748〔税込〕



朝日新聞 2025/09/06



みんなで決めた真実

似鳥 鶏 著

講談社

裁判の生中継が一大エンターテイメントとなり、「名探偵」が活躍する社会。凄腕の探偵だった僕のじいちゃんは、法廷でかつての弟子と推理対決をすることに…。『メフィスト』連載を単行本化。

2025:8./ 273p 978-4-06-539907-1



¥1,980〔稅込〕

朝日新聞 2025/09/06



宙飛ぶバイオリン<1>(モーニング KC)

三原 和人 著

講談社

ドレミファソラシど青春! 恋、音、宇宙! わからないことばかりのなかで成長する少年少女を描くジュブナイル第1巻!

2025:7./ 192p 978-4-06-540048-7

¥792〔税込〕



朝日新聞 2025/09/06



なぜ社会は変わるのか~はじめての社会運動論~(講談社現代新書 2781)

富永 京子 著

講談社

デモにストライキ、不買運動、SNS の炎上…。社会はひとりでに変わっていくわけではない。そこには必ず「変えた」人たちがいる。社会運動はどのようにして起きるのか。気鋭の社会学者が 11 の理論をわかりやすく解説する。

2025:7./ 259p 978-4-06-540434-8 ¥1,100〔税込〕



朝日新聞 2025/09/06



太陽の季節 改版(新潮文庫)

石原 慎太郎 著 新潮社

朝日新聞 2025/09/06

2010:12./ 349p 978-4-10-111901-4

¥781〔税込〕





きことわ(新潮文庫 あ-76-1)

朝吹 真理子 著

新潮社

葉山の高台にある別荘で、幼い日をともに過ごした貴子と永遠子。ある夏、突然断ち切られたふたりの親密な時間が、25年後、別荘の解体を前にして、ふたたび流れはじめる…。

2013:8./ 134p 978-4-10-125181-3 ¥506〔税込〕



朝日新聞 2025/09/06



加耶/任那~古代朝鮮に倭の拠点はあったか~(中公新書 2828)

仁藤 敦史 著中央公論新社

3~6世紀に朝鮮半島南部に存在した小国群、加耶/任那。長く倭の拠点と認識されてきたが、歴史教科書の記述は修正が続いた。古代東アジア史の大きな争点である同地域の実態を、実証研究から明らかにする。

2024:10./ 256p 978-4-12-102828-0



¥990〔税込〕

朝日新聞 2025/09/06



恐竜学

小林 快次 編東京大学出版会

恐竜の分類、進化、生理、生態、そして日本の恐竜について、気鋭の研究者たちが詳述した、初めての日本オリジナルの恐竜専門書。「進化と歴史」「古生理学と古生態学」「日本の恐竜」の3部構成。

2025:4./ 512p 978-4-13-060260-0 ¥6,380〔税込〕



朝日新聞 2025/09/06



「進歩」を疑う〜なぜ私たちは発展しながら自滅へ向かうのか〜(NHK 出版 新書 747)

スラヴォイ・ジジェク 著

NHK出版

加速度的に発展しながら着実に破局へと突き進む人類は、真に進歩しているのか? 現代思想の世界的奇才が、「進歩」の理念が覆い隠してきた欺瞞を暴き、地球規模の惨事に備えるための新たな連帯を構想する。

2025:7./ 201p 978-4-14-088747-9 ¥1,375〔稅込〕



朝日新聞 2025/09/06



日中外交秘録~垂秀夫駐中国大使の闘い~

垂 秀夫 著

文藝春秋

中国共産党内に裏人脈を張り巡らせ、機密情報を誰よりも早く入手し、理不尽な恫喝に屈しない…。異能の外交官、垂秀夫駐中国大使が明かす秘話満載の回顧録。習近平時代を読み解く3つの視座、台湾有事の本当の意味とは?

朝日新聞 2025/09/06

2025:6./ 542p 978-4-16-391987-4 ¥2,750〔稅込〕





真珠夫人(文春文庫)

菊池 寛 著

文芸春秋

美貌の未亡人瑠璃子が、男性のエゴイズムに復讐しながら、最後は彼女を慕う青年に 殺されるまでを描いた長篇小説。解説・川端康成 2002:8./ 588p 978-4-16-741004-9

¥891〔稅込〕



朝日新聞 2025/09/06

タイムスリップ・コンビナート(文春文庫)

笙野 頼子 著

文芸春秋

電話の主はマグロかスーパージェッターか? 時間と空間がとめどなく歪み崩れていく 「海芝浦」への旅が始まった。芥川賞受賞の表題作他、「下落合の向こう」「シビレル夢の水」を収録。

1998:2./ 178p



朝日新聞 2025/09/06



真鶴(文春文庫)

川上 弘美 著

文芸春秋

夫は 10 年以上前、日記に「真鶴」と記して失踪した。京は娘、母と 3 人暮らしをしながら、恋人と付き合い、真鶴と東京の間を往還する

2009:10./ 271p 978-4-16-763106-2 ¥682〔税込〕



朝日新聞 2025/09/06



山と獣〜焼畑と祭りにみる山村の民俗誌〜

須藤 功著

農山漁村文化協会

宮本常一が所長だった日本観光文化研究所に所属し、全国の村で「あるくみるきく」 ことを続けてきた民俗学写真家が、鳥獣害に悩みながらも焼畑で生計を立て、祭りに 願いを託した人びとの「ふつうの暮らし」を写真とともに綴る。 2025:7./ 302p 978-4-540-25109-2 ¥2,750〔税込〕



朝日新聞 2025/09/06



アンチ・アンチエイジングの思想~ボーヴォワール『老い』を読む~

上野千鶴子 著

みすず書房

人はなぜ老いを恐れるのか。ボーヴォワールの「老い」を通して、あらゆる角度から 老いの現実を照らし、自己嫌悪させる社会のからくりを暴く。老い衰え、自立を失っ た人間が生きる社会を構想する。『みすず』連載を書籍化。 2025:4./ 317p 978-4-622-09730-3 ¥2,970〔税込〕



朝日新聞 2025/09/06



ジュラシック水族館へようこそ〜日本の化石からわかる海の古代生物〜 (DOJIN 選書 100)

2025:5./ 227p 978-4-7598-2177-2 ¥2,090〔税込〕



中島 保寿 著化学同人

日本各地の絶滅した水生生物にまつわる研究の紹介をとおして、発掘調査を始めるまでの手続き、化石発掘の手法、クリーニングから復元、論文発表まで、知られざるエピソードとともに、古生物学研究の醍醐味を大いに語る。

朝日新聞 2025/09/06



修理する権利~使いつづける自由へ~

アーロン・パーザナウスキー 著

青土社

「壊れたら買い替え」へ消費者を駆り立てる資本主義社会には、修理を阻む巧妙なカラクリが隠されていた。米国やヨーロッパで巻き起こっている「修理する権利」運動の現状を、縦横無尽に分析する。

2025:4./ 464p 978-4-7917-7695-5 ¥4,840〔税込〕



朝日新聞 2025/09/06



作り方を作る

佐藤 雅彦 著

左右社

一世を風靡した CM のかずかず、身体表象をテーマにしたインタラクティブ・アートなどを手掛けてきた、表現者・佐藤雅彦。その 40 年にわたる創作活動について、佐藤雅彦自身が語る。横浜美術館の展覧会の公式図録。

2025:6./ 288p 978-4-86528-475-1 ¥2,970〔税込〕



朝日新聞 2025/09/06



はじめての井上有一

井上 有一 著

リトル・モア

保守的な書道界に縛られず、戦後すぐから国際的に活躍した井上有一。書という枠組みを超え、前衛美術の文脈で高く評価された彼は、どんなふうに作品を作ったのか。 井上自身による文章と、代表的作品で綴る井上有一の入門書。 2025:7./ 159p 978-4-89815-612-4 ¥2,420〔税込〕



朝日新聞 2025/09/06



松明のあかり~暗くなっていく時代の寓話~

バリー・ユアグロー 著

twililight

トランプ政権下のいま、日々押し寄せてくる、アメリカのみならず世界中を危険にさらしている暴虐、非道、嘘のただなかで生きる、その痛みに満ちた経験を、想像力を通して綴った寓話。全 22 編を収録。

朝日新聞 2025/09/06

2025:8./ 85p 978-4-911605-01-1





ダークネス

桐野 夏生 著 新潮社

「ダーク」から 20 年、村野ミロは生きていた。そして息子のハルオは「悪」を知る旅に出るが…。息子を守るため、凍る火の玉、ミロの最後の闘いが始まる。『小説新潮』連載を加筆・修正。

2025:7./ 498p 978-4-10-466705-5 ¥2,750〔税込〕



朝日新聞 2025/09/06、産経新聞 2025/09/14



ソウル・サーチン~「沖縄」を描き続ける男・新里堅進作品選集及び評伝~ (torch comics)

安東 嵩史 編 新里 堅進/藤井 誠二 著 リイド社

「沖縄で、沖縄を描く」ことに人生を捧げてきた漫画家・新里堅進。戦後の沖縄文化 史、そして日本漫画史におけるミッシング・ピースとも言うべき新里の人生とその作 品を通じて問い直す戦後 80 年特別企画。

9 7 8 4 8 4 5 8 6 7 8 8

978-4-8458-6788-2

¥3,850〔稅込〕

2025:8./911p

朝日新聞 2025/09/06、読売新聞 2025/09/14



カレワラ~フィンランド叙事詩~<上>(岩波文庫 赤 745-1)

リョンロット 編

岩波書店

カレワラは、フィンランド各地でカンテレ(竪琴)に乗せて歌い継がれてきた一大民族 叙事詩。19世紀初頭、リョンロットにより採集・編纂された原典版からの平明な口 語による完訳。 1998:7./ 497p 978-4-00-327451-4 ¥1,507〔稅込〕



朝日新聞 2025/09/13



カレワラ~フィンランド叙事詩~<下>(岩波文庫 赤 745-2)

リョンロット 編

岩波書店

鍛冶のイルマリネンは、婚礼の儀式を全て終えて花嫁を伴って帰還した。一方、婚礼の宴に招かれなかったむら気のレンミンカイネンは憤り、復讐を決意し、死の危険が 待つポホヨラへと向かう。 1998:7./ 480p 978-4-00-327452-1 ¥1,507〔稅込〕



朝日新聞 2025/09/13



小泉八雲集 改版(新潮文庫 こ-1-1)

小泉 八雲 著

新潮社

日常の生活、風俗習慣から民話、伝説まで、近代国家への途上にある日本の忘れられた側面を掘り起こして、古く美しい、霊的なものを求め続けた小泉八雲。「影」「骨董」「怪談」などの作品集から代表作全 48 編を新訳で収録。

朝日新聞 2025/09/13

2012:3./ 492p 978-4-10-109401-4 ¥935〔稅込〕





季節のない街 第2版(新潮文庫 や-3-12)

山本 周五郎 著

新潮社

他人には見えない電車を毎日運行する六ちゃん。夫を交換し合って暮らす勝子と良江。自宅に忍び込んだ泥棒をかばうたんば老人-。誰もがその日の暮らしに追われる貧しい街で、弱さや狡さを隠せずに生きる住人達の悲喜を紡ぐ。

2019:7./ 467p 978-4-10-113490-1 ¥825〔税込〕



朝日新聞 2025/09/13



ハウスメイド(ハヤカワ・ミステリ文庫 HM 530-1)

フリーダ・マクファデン 著

早川書房

前科持ちのミリーが手に入れた、裕福な家庭でのハウスメイドの仕事。だが、この家族は何かがおかしい…。家族にまつわる真相が明かされるや、それまでに目にしたものすべてがひっくり返る。恐怖と衝撃のエンタメ小説。

2025:8./ 525p 978-4-15-186701-9 ¥1,408〔税込〕



朝日新聞 2025/09/13



南洋標本館

葉山 博子 著早川書房

大正 11 年、日本統治下の台湾。陳と生田はともに植物学者を志していた。だが、養父母の期待を背負った陳は東京帝大医学部へ入学。生田が採集旅行に出かける一方、陳は陸軍軍属の技師としてニューギニア探検へと向かう…。

2025:7./ 529p 978-4-15-210441-0 ¥2,420〔税込〕



朝日新聞 2025/09/13



トラジェクトリー

グレゴリー・ケズナジャット 著

文藝春秋

日本で就職した英会話教師・ブランドン。熟年の生徒・カワムラとレッスンを続けるうち、2人のあいだに不思議な交流が生まれ…。アメリカ出身作家が端正な日本語で描く「越境文学」。『文學界』掲載の表題作ほか全2編を収録。

2025:7./ 172p 978-4-16-392012-2 ¥1,980〔税込〕



朝日新聞 2025/09/13



ホワイトハートの殺人(ハーパーBOOKS M・チ3・1)

クリス・チブナル 著

ハーパーコリンズ・ジャパン

英国南西部の海辺の村で、名物パブの店主が殺された。彼は裸で縛られ、頭に牡鹿の 枝角が括りつけられていた。刑事ニコラは事件解明に奔走するはめになるが、被害者 と村の住人の隠された"顔"が暴かれてゆき…。

朝日新聞 2025/09/13

2025:8./ 462p 978-4-302-10103-0 ¥1,430〔税込〕





私たちに名刺がないだけで仕事してこなかったわけじゃない〜韓国、女性た ちの労働生活史〜

2025:7./ 271p 978-4-479-39457-0 ¥2,420〔稅込〕



京郷新聞ジェンダー企画班 著 大和書房

まともな肩書を与えられなかったために名刺を持たなかったけれど、生涯働いてきた 60 代、70 代の女性たち。そんな"可視化されてこなかった人たち"に光を当てたイン タビュー集。韓国の新聞連載記事を書籍化。

朝日新聞 2025/09/13

コーヒー 2050_年 問題

コーヒー2050 年問題

武田 淳 著

東京書籍

気候変動を前提とする時代に、コーヒーの生産現場では今、何が起きているのか。この危機に対してどのような対応策が取られつつあるのか。消費者には何ができるのか。コーヒー産地の視点からコーヒー2050年問題を考える。

±□ □ 並⊆ □ 000 € 100 /40

2025:7./ 255p 978-4-487-81859-4 ¥2,640〔稅込〕



朝日新聞 2025/09/13

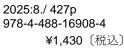


本好きに捧げる英国ミステリ傑作選(創元推理文庫 Mン8-1)

マーティン・エドワーズ 編 クリスチアナ・ブランド他 著東京創元社

「名探偵 \mathbf{x} 消えた本」「作家 \mathbf{x} 犯人当て」「詩 \mathbf{x} 暗号」…。現代英国を代表するミステリ作家にして愛好家であるマーティン・エドワーズが、巨匠たちの名品から「本」をテーマに精選した 16 編の傑作ミステリを収録。

朝日新聞 2025/09/13







入門講座三島由紀夫~31 作品の勘どころ~(平凡社新書 1087)

佐藤 秀明 著 平凡社

「身を挺して」「悲劇的なもの」になりたいという死によって完結する欲動を内に秘めて、**45**年の生涯を生きた三島由紀夫。その多彩な執筆活動のなかから、生きようとする意欲と死の欲動とのあらがいを探る。

978-4-582-86087-0

2025:8./ 270p

朝日新聞 2025/09/13



小名浜ピープルズ

小松 理虔 著

里山社

10年を経た「震災後」を、地元の人々はどう暮らしてきたのか。福島県いわき市小名浜で生まれ育ち地域活動をしてきた著者が、魅力的な市井の人々の話を聞き、綴った、災害が絶えない世界に光を灯す人物録。

朝日新聞 2025/09/13、読売新聞 2025/09/21

2025:5./ 251p 978-4-907497-23-1 ¥2,530〔税込〕





戦場で笑う〜砲声響くウクライナで兵士は寿司をほおばり、老婆たちは談笑する〜

2025:7./ 317p 978-4-02-332451-0 ¥2,310〔税込〕



横田徹 著

朝日新聞出版

戦場を案内する愛犬第一主義のフィクサー、全身刺青の日本人義勇兵…。ウクライナ軍に従軍した日本人報道カメラマンが、ミクロの視点で現代の戦争を記録する。小泉悠との対談も収録。『Fielder』等掲載を加筆修正。

朝日新聞 2025/09/20



see you again

小林 篤 著

講談社

1994 年 11 月、13 歳で命を絶った中学生が遺書に綴った、凄惨ないじめ。日本中が 涙した遺書に、ルポライター小林は違和感を覚えた。それが 30 年に及ぶ謎解きの旅 の始まりだった…。

2025:6./ 924p 978-4-06-537728-4 ¥4,950〔税込〕



朝日新聞 2025/09/20



移民と日本社会~データで読み解く実態と将来像~(中公新書 2580)

永吉 希久子 著 中央公論新社

日本の大きな課題である移民について、感情論を排し、統計を用いた計量分析で論じた書。実証的な観点から、経済、労働、社会保障、統合のあり方を展望。移民受け入れのあり方を通して、日本社会の特質と今後を浮き彫りにする。

2020:2./ 296p 978-4-12-102580-7 ¥1,056〔稅込〕



朝日新聞 2025/09/20



日本の後宮~天皇と女性たちの古代史~(中公新書 2870)

遠藤 みどり 著

中央公論新社

天皇家の安定した皇位継承のために創られた後宮で、妃・夫人・嬪・女御・更衣という後宮たちはどのように創られ、暮らしていたのか。起源から平安末期までの歴史を追い、制度とその実態を描く。

2025:8./ 264p 978-4-12-102870-9 ¥1,100〔税込〕



朝日新聞 2025/09/20



高宮麻綾の引継書

城戸川 りょう 著

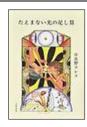
文藝春秋

精魂込めて作り上げた新規事業が、親会社に潰された。理由は"リスク回避"。怒りを爆発させた3年目の社員・高宮麻綾は、社内外を駆けずり回り、"リスク"の調査に乗り出し…。ビジネス×痛快ミステリー。

朝日新聞 2025/09/20

2025:3./ 315p 978-4-16-391951-5 ¥1,760〔税込〕





たえまない光の足し算

日比野 コレコ 著

文藝春秋

美容外科のポスターに啓示を受け花を食べる"異食の道化師"薗、「みんなのひと」になりたい"抱擁師"ハグ、デビューしたばかりの"プロの軟派師"弘愛。若者たちの生を、鮮烈な文章で描く。『文學界』掲載を単行本化。

2025:7./ 158p 978-4-16-392013-9

¥1,980〔税込〕



朝日新聞 2025/09/20



イン・ザ・メガチャーチ

朝井リョウ 著

日経BP社

「神がいないこの国で人を操るには、"物語"を使うのが一番いいんですよ」 ファンダム経済を築く者、のめり込む者、のめり込んでいた者…。三者三様の視点から、"物語"の功罪を炙り出す。『日本経済新聞』連載を単行本化。

2025:9./ 444p 978-4-296-12104-5 ¥2,200〔稅込〕



朝日新聞 2025/09/20



入門 男らしさの歴史(ちくまプリマー新書 501)

弓削 尚子 著

筑摩書房

身体を鍛える、決闘文化、性的能力など、いつの時代も「男らしさ」は変化する。 「ふつうの」男性、それに苦しむ男性、こぼれ落ちる男性の実態と背景を探る。 2025:9./ 239p 978-4-480-68533-9 ¥1,034〔税込〕



朝日新聞 2025/09/20



芝園団地に住んでいます~住民の半分が外国人になったとき何が起きるか~

大島 隆著

明石書店

日本人と外国人が同じ場所で暮らすとき、何が起きるのか。住民にはどのような感情が生まれるのか-。住民の半数余りが外国人、そのほとんどを中国人が占める埼玉県川口市の芝園団地で暮らす、ひとりの住民の記録。

2019:10./ 233p 978-4-7503-4894-0 ¥1,760〔税込〕



朝日新聞 2025/09/20



香りの起源を求めて~香水を支える植物 18 の物語~

ドミニーク・ローク 著

築地書館

香りの原料はどのように栽培・生産・調達されているか。またそこに潜む社会問題とは。すばらしい香水を作るための天然成分を見つけるべく世界中を旅した香粧品企業の元香水原料調達責任者が、香りの奥深き世界を解き明かす。

2025:5./ 286p 978-4-8067-1685-3 ¥2,640〔稅込〕



朝日新聞 2025/09/20



日本で働く〜外国人労働者の視点から〜

伊藤 泰郎/崔 博憲/四方 久寛 著松籟社

外国人労働者の目に、縮小する現代日本はどのように映っているのか。技能実習生や 日系人たちをとりあげ、統計、聞き取り、支援活動の経験から「向う側」の視点にせ まり、外国人労働者との関係を見つめなおす。 2021:3./ 443p 978-4-87984-384-5 ¥2,860〔税込〕



朝日新聞 2025/09/20



極右インターナショナリズムの時代~世界右傾化の正体~

佐原 徹哉 著

有志舎

欧米で広がる極右政党の台頭と反イスラムの風潮、ムスリム諸国での宗教右派の台頭、加速する新自由主義経済政策...。極右思想のネットワーク化とその広がりを地域横断的に分析し、世界的な「右傾化」メカニズムの解明に挑む。

2025:7./ 448p 978-4-908672-84-2 ¥3,740〔税込〕



朝日新聞 2025/09/20



まぶしい便り(Woman's Best 韓国女性文学シリーズ 18 15)

ペク・スリン 著

書肆侃侃房

派遣看護師としてドイツに渡っていた伯母を頼り、韓国から西ドイツに移り住んだへ ミ。ある日、伯母と同じ派遣看護師の子どもであるハンスから頼まれたのは…。韓国 の「派独看護師」をモチーフにした長編小説。 2025:7./ 276p 978-4-86385-683-7 ¥2,200〔稅込〕



朝日新聞 2025/09/26



第七問

リチャード・フラナガン 著

白水社

終末的未来の危機を描いた小説家 $\mathbf{H} \cdot \mathbf{G} \cdot \mathbf{r}$ の 原爆開発に端緒を開いた物理学者レオ・シラード。泰緬鉄道から生還した父とその家族。流刑地だった母国とそこに住む人々の歴史を描くメモワール。

2025:8./ 269p 978-4-560-09186-9 ¥3,300〔税込〕



朝日新聞 2025/09/26、日本経済新聞 2025/09/27



うっかりくまさんたちのおかしなおんがくかい

へんみあやか 著

朝日新聞 2025/09/27

Gakken

今日は音楽会の日。音楽家のくまさんたちは楽器をうっかりまちがえて、へんなものを持っていってしまいました。くまさんたちは、ねこ、さつまいも、洗濯機、ソーセージ、ホットケーキを持って、ステージにあがりますが...。

2025:9./ 32p 978-4-05-206197-4 ¥1,650〔税込〕





ニュースが消える日

堂場 瞬一著

講談社

大手全国紙の整理記者を辞め、実家の印刷所が発行する地域紙の編集長になった戸倉 大介。人口 25 万人の平和な地方都市に事件は少なく街ネタが中心。そんな中、若き 市長が自宅前で何者かに襲撃され、戸倉の記者魂に火が付き…。 2025:7./ 370p 978-4-06-540163-7 ¥2,310〔税込〕



朝日新聞 2025/09/27



旅する小説(講談社文庫 み 68-3)

宮内 悠介/藤井 太洋/深緑 野分/森 晶麿/石川 宗生/小川 哲 著 講談社

あの夏、最後の家族旅行での惨劇が、私の運命を大きく変え…。森晶麿「グレーテルの帰還」をはじめ、最旬の作家たちが想像の翼を広げて誘う、6 つのノベル・ジャーニー。

2025:9./ 287p 978-4-06-540858-2



¥990〔税込〕

朝日新聞 2025/09/27



生きるための読書

津野 海太郎 著

新潮社

老化につれて狭くなった私の世界の外で、新しく魅力的な知的世界が着実に築かれつつあるらしい…。伊藤亜紗、斎藤幸平など、若い世代の知性にふれ、学んでゆく喜びをいきいきと綴る。『熱風』連載を改題して単行本化。

2024:12./ 221p 978-4-10-318535-2 ¥2,200〔稅込〕



朝日新聞 2025/09/27



この世界からは出ていくけれど(ハヤカワ文庫 NV 1542)

キム・チョヨプ 著

早川書房

芸術を見て楽しめない特殊な障害を持つマリがダンスのレッスンを希望してきた。彼女が踊る目的とは?「マリのダンス」をはじめ、社会の多数派とそうなれない者がお互いに理解と共存を試みる、優しさと希望に満ちた全7篇。

2025:9./ 317p 978-4-15-041542-6 ¥1,210〔税込〕



朝日新聞 2025/09/27



計画と無計画のあいだ〜「自由が丘のほがらかな出版社」の話〜(河出文庫 み 25-1)

三島 邦弘 著河出書房新社

「まっすぐ」だから、「奇跡」はおこった-。一冊入魂、原点回帰の出版社として各界から熱い注目を浴びるミシマ社の代表が、たった1人の起業から5年目の「発見」までを綴った名著に、書き下ろしの「番外編」を加えて文庫化。

朝日新聞 2025/09/27

2014:8./ 283p 978-4-309-41307-5 ¥814〔税込〕





まず牛を球とします。(河出文庫 い 51-1)

柞刈 湯葉 著 河出書房新社

牛は食べたいが、動物は殺したくない。そんな人類の夢が実現した未来を描く表題作をはじめ、ミステリ少年漫画家の苦悩を綴った「犯罪者には田中が多い」などを収録した SF 作品集。1 編追加して文庫化。

2025:9./ 301p 978-4-309-42213-8 ¥1,078〔税込〕



朝日新聞 2025/09/27



共和国における動物〜フランス革命と動物の権利の起源 1789-1802 年〜(叢書・ウニベルシタス 1183)

ピエール・セルナ 著

法政大学出版局

恐怖政治の記憶が今だ鮮明な 1802 年、パリの国立学士院が募集した、人間と動物の関係をめぐる懸賞論文を読解。今日の<動物の権利>やエコロジー思想の起源に遡る歴史学の挑戦。

2025:5./ 268p 978-4-588-01183-2 ¥3,960〔稅込〕



朝日新聞 2025/09/27



年表でたどる世界まるごとアート図鑑

ドーリング・キンダースリー社編集部 編

BL出版

ヨーロッパ、アメリカ、アフリカ、アジア、日本…。世界じゅうにあふれる人類のアートの歴史を年表にそってたどってみよう!太古の洞窟壁画から現代アートにいたるまで、500点以上の美術作品を掲載した世界の美術史図鑑。

2025:9./ 192p 978-4-7764-1170-3 ¥4,950〔税込〕



朝日新聞 2025/09/27



ひとり出版社「岩田書院」の舞台裏<Part3(2008~2013)>

岩田 博著

岩田書院

岩田書店の新刊ニュースの「裏だより」No.511~785 を再録。主として日本史・民俗学関係の専門書を発行し、著者が 1 人できりもりする出版社の舞台裏を紹介する。 『月刊歴史手帖』編集後記も収録。 2013:8./ 158p 978-4-87294-820-2 ¥1,650〔税込〕



朝日新聞 2025/09/27



島まみれ帳

ミロコマチコ 著

ブロンズ新社

家づくりや巨大台風、夜中までつづく島のお祭り、島の子どもたちとのワークショップ…。絵本作家で画家のミロコマチコが、奄美大島での濃厚な時間と、愛猫との暮らしをイラスト・写真とともに綴る。Web 連載を書籍化。

朝日新聞 2025/09/27

2025:7./ 223p 978-4-89309-745-3

¥1,870〔稅込〕





GROWTH~「脱」でも「親」でもない新成長論~

ダニエル・サスキンド 著

みすず書房

繁栄をもたらす一方、自然環境の破壊、格差など莫大な代償を伴ってきた経済成長。 その不可思議な過去、厄介な現在、不確かな未来に至るまでのストーリーを語る。バ ラク・オバマが選んだ 2024 年の必読書。

2025:8./ 408p 978-4-622-09801-0 ¥4,180〔稅込〕



朝日新聞 2025/09/27、日本経済新聞 2025/09/27



澤好摩俳句集成

山田耕司 編 澤好摩 著

ふらんす堂

澤好摩の既刊句集「最後の走者」「印象」「風影」「光源」「返照」と、「返照」以

後の作品を集成。全 1469 句を収録する。年譜・初句索引・季語索引付き。

2025:8./335p 978-4-7814-1761-5 ¥6,600〔稅込〕



朝日新聞 2025/09/28



雲助おぼえ帳〜滑稽噺から芝居噺まで厳選 55 席を語る〜

五街道雲助 著 朝日新聞出版

落語界で4人目の人間国宝・五街道雲助が自身の「おぼえ帳(ネタ控え)」から厳選し た55席を、あらゆる角度から語り尽くす。師匠である十代目金原亭馬生のこと、弟 子たちのこと、高座じゃ言えない「ここだけの話」も満載。

2025:6./396p 978-4-02-252064-7 ¥2,750〔稅込〕



東京・中日新聞 2025/09/06



独り言の多い博物館

標野 凪 著

幻冬舎

丘の上にある古いレンガの「別れの博物館」。さまざまな想いを抱えた人々が、今日 も博物館を訪れます。新たな一歩を踏み出すために。大切な何かを取り戻すために。 思い出の品、お預かりします-。

2025:7./ 226p 978-4-344-04456-2 ¥1,760〔稅込〕



東京・中日新聞 2025/09/06



女人太平記

羽生 飛鳥 著 PHP研究所

関東申次として権勢をふるった西園寺家の若き当主・公宗の正室となった日野名子。 だが彼女の栄光の日々は、後醍醐院の謀略と足利尊氏の裏切りにより、あっけなく失 われ…。激動の室町幕府揺籃期を活写する歴史長編。

東京・中日新聞 2025/09/06

2025:8./398p 978-4-569-85955-2 ¥2,750〔稅込〕





SISTER"FOOT"EMPATHY

ブレイディ みかこ 著

集英社

無駄に分断されず、共に地べたに足をつけてつながる。コロナ禍以降の社会の動きを鋭く見つめ、これからの女性たちの生き方を考えた、前に進むための力が湧くエッセイ 39 編を収録。『SPUR』連載を加筆修正し単行本化。

2025:6./ 270p 978-4-08-788113-4 ¥1,760〔税込〕



東京・中日新聞 2025/09/07



到来する女たち~石牟礼道子・中村きい子・森崎和江の思想文学~

渡邊英理 著

書肆侃侃房

主に九州と山口地方におけるサークルのための交流誌『サークル村』。そこに集った 石牟礼道子、中村きい子、森崎和江の3人が、聞書きなどの手法で切り拓いた新たな 地平を、「思想文学」の視点で読み解く。 2025:7./ 397p 978-4-86385-678-3 ¥2,640〔稅込〕



東京・中日新聞 2025/09/07、読売新聞 2025/09/28



春の星を一緒に

藤岡 陽子 著

小学館

シングルマザーの看護師として、一人息子の涼介と寄り添い生きてきた 40 歳の奈緒は、東京の緩和ケア病棟で働くことに。死を間近に見つめ、幸せに生ききる最期を模索し続ける日々を送る。一方、強く抱く母子の夢の行方は…。

2025:9./ 356p 978-4-09-386761-0 ¥1,980〔税込〕



東京・中日新聞 2025/09/13



戦下の読書〜統制と抵抗のはざまで〜(講談社選書メチエ 827)

和田 敦彦 著

講談社

戦時下、人々は何を読み、何を考え、何になっていったのか。子供・勤労青年・女性・兵士、農村・都市…。各階層・各地域の読書と生のリアルを、戦前・戦中になされた「読書調査」から掘り起こす。

2025:7./ 253p 978-4-06-540336-5 ¥2,090〔税込〕



東京・中日新聞 2025/09/14



温泉小説

朝比奈あすか 著

光文社

年齢も性別も境遇も違う主人公たちが、思い惑い人生の苦みを抱えながら温泉地へと向かう。その湯は強ばった心さえ解く力がある…。幸せな孤独と満ち足りた解放を紡ぐ6つの温泉旅。『小説宝石』掲載他を加筆修正。

東京・中日新聞 2025/09/14

2025:4./ 284p 978-4-334-10623-2 ¥1,870〔税込〕





マスカレード・ライフ

東野 圭吾 著

集英社

ホテル・コルテシア東京で開かれる文学賞選考会。最終候補者のなかに、ある死体遺棄事件の重要参考人が…? 警視庁を辞め、コルテシア東京の保安課長となった新田浩介が始動する!

2025:7./ 383p 978-4-08-775473-5 ¥2,200〔税込〕



東京・中日新聞 2025/09/20



スワイプ厳禁~変死した大学生のスマホ~

知念実希人 著

双葉社

大学生の一色和馬は「就職に有利になる」と聞いて「やばいバイト」に手を出す。都市伝説「ドウメキの街」を調べていくうちに、自分のスマホに不可解な「何か」が起き…。文庫より小さいスマホサイズのホラー・サスペンス。

2025:8./ 131p 978-4-575-24833-3



¥499〔税込〕

東京・中日新聞 2025/09/20



思考実験大全

岡本 裕一朗 著イースト・プレス

「デカルトの悪霊」「トロッコ問題」「予定説」…。プラトンからマルクス・ガブリエル、吉本隆明まで、古今東西の哲学者たちが編み出した思考実験 100(+1 問)を網羅。各項目はエピソードと解説で構成し、出典を明記する。

2025:8./ 576p 978-4-7816-2475-4 ¥2,178〔税込〕



東京・中日新聞 2025/09/20



「しない」が子どもの自力を伸ばす〜叱らない・ほめない・コントロールしない、狩猟採集民の子育て術〜

マイケリーン・ドゥクレフ 著

築地書館

科学者でもあるジャーナリストが、マヤ族やイヌイット族などの伝統的な子育で文化を訪ね歩き、出会った育児の知恵とは。子どもを管理しすぎず自然に自立を促す、シンプルでポジティブな子育で術を紹介する。

2025:7./ 394p 978-4-8067-1688-4 ¥2,750〔稅込〕



東京・中日新聞 2025/09/20



光る夏~旅をしても僕はそのまま~

鳥羽和久 著

晶文社

ジャワ島、ハバナ、スリランカ、メキシコ、アッシジ、クレタ島…。世界の旅先で出会った、曰く言い難い体験の数々を綴る。『晶文社スクラップブック』連載を全面改稿し、さらに書き下ろしを加えたあたらしい紀行文学。

東京・中日新聞 2025/09/21

2025:8./ 261p 978-4-7949-8011-3 ¥1,980〔税込〕





まろ丸伊勢参り

畠中 恵 著 KADOKAWA

両替商の三男坊・九郎の姪の結に、大坂の大店の跡取りになる養子話が舞い込む。なぜか伊勢まで結を連れて来て欲しいと言われ、九郎は仔犬のまろ丸をお供に、結を伊勢まで送り届けることに…。『公明新聞』連載を改稿。

2025:8./ 365p 978-4-04-114348-3 ¥1,980〔税込〕



東京・中日新聞 2025/09/27



フェイクファシズム~飲み込まれていく日本~

金子 勝 著

講談社

トランプは世界をどう変えるのか。アベノミクスをどう終わらせるか。マイナ保険証の失敗の本質とは。エネルギー転換はなぜ必要か。崩壊する農業と農村を立て直す道とは・。日本を創りかえるための政策を考える。

2025:7./ 195p 978-4-06-540500-0 ¥1,650〔税込〕



東京・中日新聞 2025/09/28



セカンド・チャンス〜シェイクスピアとフロイトに学ぶ「やり直しの人生」 〜(岩波新書 新赤版 2068)

スティーブン・グリーンブラット、アダム・フィリップス 著 岩波書店

偶然や意志、運命に左右されるセカンド・チャンスの実現や失敗を描いたシェイクスピアとフロイトと、その解釈者たちを通して、人間の再生能力の力強さを考察。「暴君」に続く"シェイクスピアを通して人生を考える本"第2弾。

2025:6./ 334p 978-4-00-432068-5 ¥1,320〔税込〕



読売新聞 2025/09/07



光の美術モザイク(岩波新書 新赤版 2074)

益田 朋幸 著

岩波書店

歴史を物語る名品、世界遺産ラヴェンナの傑作、聖像破壊運動の受難を凌いだ作品…。古代ギリシアから近代に至る、「モザイク」という技法による美術作品の魅力を余すところなく紹介する。図版 100 点超を掲載。

2025:7./ 222p 978-4-00-432074-6 ¥1,342〔税込〕



読売新聞 2025/09/07



となりの陰謀論(講談社現代新書 2778)

烏谷 昌幸 著

講談社

トランプは「闇の政府」と戦っている? オバマもバイデンもすでに処刑された? 陰謀論はどこで生まれるのか。なぜ信じてしまうのか。現代世界を蝕む「病」の正体を、気鋭のメディア研究者が明かす。

2025:6./ 206p 978-4-06-540135-4 ¥990〔税込〕





戦争と万博(講談社学術文庫 2877)

椹木 野衣 著

講談社

かつて爆心地を見た男の構想のうえに「未来への夢」が描かれた、1970年の大阪万博。資料と証言を積み重ね、日本で反復される万博の意味を鋭く問う。3度目の万博開催を踏まえた新規論考を加え文庫化。

2025:8./ 296p 978-4-06-540407-2 ¥1,540〔税込〕



読売新聞 2025/09/07



逃亡<上巻>(新潮文庫)

帚木 蓬生 著 新潮社 読売新聞 2025/09/07 2000:7./ 623p 978-4-10-128811-6 ¥990〔税込〕





逃亡<下巻>(新潮文庫)

帚木 蓬生 著 新潮社 読売新聞 2025/09/07 2000:7./ 587p 978-4-10-128812-3 ¥935〔税込〕





去年、本能寺で〜The virtual city of Nobunaga〜

円城 塔 著

新潮社

この本能寺、なんか変。信長は転生し秀吉を叱り、道三は三人に分裂? アイドル善鸞は神曲を引っ提げ、ツアーを敢行し…。表題作など、奇想迸る歴史×SF 全 11 編を収録。『新潮』掲載をまとめて単行本化。

2025:5./ 308p 978-4-10-331163-8 ¥2,090〔税込〕



読売新聞 2025/09/07



五胡十六国時代~王朝の乱立と権力闘争~(ハヤカワ新書 044)

小野 響著

早川書房

三国時代の後、匈奴漢の建国から北魏による華北統一までの136年間、人々はなにを求めて戦い、なにを成し得たのか。五胡十六国時代を駆け抜けた個性豊かな英雄たちの事績とともに、その実像を活写する。

2025:6./ 377p 978-4-15-340044-3 ¥1,430〔税込〕



読売新聞 2025/09/07



妻はりんごを食べない

瀧羽 麻子 著

幻冬舎

ある日、暁夫の妻が実家に行ったきり戻ってこなくなった。縁のある場所を探るが、彼女は気配だけを残し、姿は見せず…。大切な人の過去を追い、禁断の扉を開け、愛の在り方を問う物語。『小説幻冬』掲載に加筆・修正。

9 7 8 4 3 4 4 0

2025:6./ 364p

978-4-344-04445-6

¥1,980〔稅込〕



フラナリー・オコナー全短篇<上>(ちくま文庫)

フラナリー・オコナー 著

筑摩書房

読売新聞 2025/09/07

2009:3./ 442p 978-4-480-42591-1 ¥1,650〔稅込〕





フラナリー・オコナー全短篇<下>(ちくま文庫)

フラナリー・オコナー 著

筑摩書房

読売新聞 2025/09/07

2009:4./ 441p 978-4-480-42592-8 ¥1,540〔稅込〕





人類はどこから来て、どこへ行くのか(ちくま学芸文庫 ウ 8-3)

エドワード・0・ウィルソン 著

筑摩書房

人間を人間たらしめる決定的要因とは何か。世界的な生物学者・博物学者が、人間の 社会に見られる高度な協力がどのようにして進化してきたのかを、自らが専門とする アリの社会と対比させながら考察する。

2025:7./ 442p 978-4-480-51306-9 ¥1,870〔稅込〕



読売新聞 2025/09/07



写真師島隆~日本初の女性フォトグラファー~

蓑崎昭子 著

皓星社

写真の黎明期、女性が写真を撮っていた! 幕末の江戸下町で、「写真師」を名乗った 島隆。知られざるキャリアウーマンの元祖の実像を追うノンフィクション。『桐生タ イムス』連載を加筆修正し単行本化。

2025:9./ 271p 978-4-7744-0864-4 ¥2.750〔稅込〕



読売新聞 2025/09/07



大画家ティツィアーノの歴史物語~パトロンは宮廷だった~

西川 和子 著

彩流社

神聖ローマ皇帝カール五世やスペイン王家など、有力者の肖像画や神話画を多く描 き、ヴェネツィアを中心に活躍したティツィアーノ。ルネサンス時代のイタリアの輝 きとともに、作品と画家の生涯をたどる。

2025:6./ 266p 978-4-7791-3059-5 ¥3,300〔稅込〕



読売新聞 2025/09/07



夜、寝る前に読みたい宇宙の話(草思社文庫 の 3-1)

野田 祥代 著

草思社

なぜ私たちは、時速 10 万キロでひた走る、小さな岩の惑星に生まれてきたのか?空 気と生命、月の意外な生い立ち、地球と人の未来、銀河系への旅…。科学に軸を置き つつ、「宇宙からの視点」をていねいにつづる。

¥990〔稅込〕

978-4-7942-2787-4

2025:6./ 293p





祭の地図~日本の祭りと伝統行事~(旅に出たくなる 12)

帝国書院編集部 編

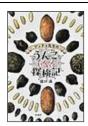
帝国書院

開いただけで旅気分! 全国 1326 の祭りや伝統行事を、見開きの都道府県別地図で紹介。特集ページでは、秋田竿燈まつり・相馬野馬追・秩父夜祭・おわら風の盆など代表的な 21 の祭りを、取材をもとに詳しく解説する。

2025:7./ 231p 978-4-8071-6785-2 ¥2,970〔税込〕



読売新聞 2025/09/07



ゲッチョ先生のうんこいろいろ探検記

盛口満 著

木魂社

1 枚の年賀状「"世界はうんこでできている"展」から始まった、うんこをめぐるゲッチョ先生の探検記。ヤギのうんこから竜のうんこ(竜涎香)の探索まで、精密なイラストとともに綴る。

2025:6./ 294p 978-4-87746-122-5 ¥1,980〔税込〕



読売新聞 2025/09/07



暦のしずく

沢木耕太郎 著 朝日新聞出版

宝暦8年、日本の芸能史においてただ一人死刑に処せられた人物、馬場文耕。士分を捨て貧乏長屋に住まい、軍記物を講釈した、知られざる男の生涯を鮮やかに描き出す、著者初の長編時代小説。『朝日新聞 be』連載を単行本化。

2025:6./ 556p 978-4-02-252062-3 ¥2,420〔税込〕



読売新聞 2025/09/07、朝日新聞 2025/09/13



ポケモン生態図鑑

株式会社ポケモン 著

小学館

ポケモンのすがたや形、生活、ポケモン同士の関わり、移動能力…。アイテム「ポケモン図鑑」を読み解いて明らかになったポケモンの生態をあざやかなイラストで紹介する。コピーして使う「ポケモンふしぎ発見シート」付き。

2025:6./ 193p 978-4-09-227426-6 ¥1,430〔税込〕



読売新聞 2025/09/07、朝日新聞 2025/09/13



翠雨の人

伊与原 新 著

新潮社

少女時代、素朴な疑問を抱いたことから理系の道を選んだ猿橋勝子。戦時下で科学と 戦争の関係を問い続けた勝子は、戦後、ビキニ水爆実験による放射能汚染の実態究明 に打ち込んでいく-。『波』連載に加筆修正。 2025:7./ 282p



読売新聞 2025/09/07、日本経済新聞 2025/09/20



統制百馬鹿~水島爾保布戦中毒舌集~

前田 恭二 著

岩波書店

戦中の言論統制下、記事や漫画を国粋主義雑誌に連載して検閲の目をかわし、体制を 批判し続けた画家・文筆家の水島爾保布。その戦中痛快コラムを選りすぐり、盧溝橋 事件から敗戦直前まで、物資窮乏、闇経済などの実態を伝える。 2025:7./ 334p 978-4-00-061706-2

¥3,300〔税込〕



読売新聞 2025/09/14



あれも食いたいこれも食いたい丸かじりヒットパレード

東海林さだお 著

朝日新聞出版

食についてのあれこれを、スルドイ観察眼とユーモアあふれる筆致で綴る、『週刊朝日』で 36 年続いた名物連載を選りすぐった傑作選。プレイバック名場面集、連載企画デスク×初代担当者による対談なども収録する。

2025:7./ 509p 978-4-02-252048-7 ¥2,200〔税込〕



読売新聞 2025/09/14



植物少女(朝日文庫 あ78-2)

朝比奈秋 著

朝日新聞出版

自身を産んだ際に植物状態になった母親へ会いに病室へ通う美桜。意思疎通できないまま、大人へと成長していくなかで、次第に親子の関係性も変化していき…。唯一無二の母と娘のありようを描く。

2025:8./ 194p 978-4-02-265204-1 ¥836〔税込〕



読売新聞 2025/09/14



星条旗の聞こえない部屋(講談社文芸文庫)

リービ英雄 著

講談社

読売新聞 2025/09/14

2004:9./ 189p



フィールダー(集英社文庫 こ 47-1)



古谷田 奈月 著

集英社

小児性愛、ルッキズム、ソシャゲ中毒、猫を愛するということ-。総合出版社の編集者・橘を中心に、現代を揺さぶる「不都合」の数々が絡み合い…。誰かを「愛でる」 行為の本質を鮮烈に暴く長編小説。 2025:7./ 382p 978-4-08-744793-4 ¥902〔稅込〕





世界 99<下>

村田 沙耶香 著集英社

14 年前、「リセット」を経験した人類。49 歳になった空子は生まれ育った「クリーン・タウン」の実家に戻る。やっと訪れた穏やかな社会の中心には、さらに変貌したピョコルンがいて…。『すばる』連載に加筆修正し単行本化。

2025:3./ 428p 978-4-08-770001-5 ¥2,420〔税込〕



読売新聞 2025/09/14



世界 99<上>

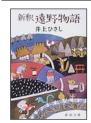
村田 沙耶香 著集英社

性格のない人間・空子は、コミュニティごとにふさわしい人格を作り、キャラクターを使い分けて生き延びてきた。だが、ペットのかわいい生き物・ピョコルンが、とある能力を備えると…。『すばる』連載に加筆修正し単行本化。

2025:3./ 429p 978-4-08-771879-9 ¥2,420〔税込〕



読売新聞 2025/09/14



新釈遠野物語 改版(新潮文庫)

井上 ひさし 著 新潮社 読売新聞 2025/09/14 2003:1./ 283p 978-4-10-116807-4 ¥737〔税込〕





スタンフォード大学の人気教授が明かす教養としての権力(日経ビジネス人文庫 ふ 9-4)

ジェフリー・フェファー 著

日経BP社

なぜ人は、権力者に動かされるのか? 「成功すれば(ほぼ)すべてが許される」など、スタンフォード大学で組織行動学を教える人気教授が、権力者の事例をもとに切れ味鋭く「権力の7つの法則 | を説く。

2025:8./ 320p 978-4-296-12553-1 ¥1,100〔税込〕



読売新聞 2025/09/14



海の仙人・雉始雊(河出文庫 い 40-5)

絲山 秋子 著

河出書房新社

宝くじに当たった河野は仕事を辞め敦賀に引っ越した。ある日、役立たずの神様・ファンタジーが訪れ、奇妙な同居生活が始まったが、彼に想いを寄せる2人の女性が訪れ…。「海の仙人」に短編を加え文庫化。

2023:2./ 176p 978-4-309-41946-6 ¥913〔税込〕





サティとドビュッシー~先駆者はどちらか~

青柳 いづみこ 著

春秋社

フランス音楽史上、最も影響力をもち最も異彩を放つ<奇才>サティと<天才>ドビュッシーの頂上決戦! ローマ大賞、独立芸術書房、万博とワグネリズムなどあらゆるトピックから、燦然と輝くフランス近代音楽史を旅する。

2025:7./ 338p 978-4-393-93240-7 ¥3,300〔税込〕



読売新聞 2025/09/14



賽の河原〜供養の宗教学〜(ちくま新書 1866)

村上 晶 著

筑摩書房

亡くなった子どもの行先として独自に考えられた「賽の河原」。**10**年以上にわたって、津軽地方の「シャーマン」たちの調査をしてきた著者が、「和製の地獄」とも言われる賽の河原を中心に、日本の供養を考える。

2025:7./ 256p 978-4-480-07698-4 ¥1,012〔稅込〕



読売新聞 2025/09/14



須永朝彦小説選(ちくま文庫 す 29-1)

山尾 悠子 編 須永 朝彦 著

筑摩書房

稀代の審美眼を有した異能の天才が描きだす官能と美の迷宮へようこそ! 須永朝彦を敬愛してやまない山尾悠子が、遺された小説から 25 作品をセレクトしたアンソロジー。「就眠儀式」「天使」、連作「聖家族」などを収録する。

2021:9./ 310p 978-4-480-43769-3 ¥946〔税込〕



読売新聞 2025/09/14

レクイエム~ある幻覚~(白水 U ブックス)

アントニオ・タブッキ 著

白水社

7月は灼熱の昼下がり、幻覚にも似た静寂な光のなか、ひとりの男がリスボンの街をさまよい、死んでしまった友人、恋人、そして若き日の父親と出会う。生者と死者、交錯する現実と幻の世界。96年刊の再刊。

1999:7./ 182p 978-4-560-07130-4 ¥1,540〔税込〕



読売新聞 2025/09/14



美しく残酷なヒトの本性~遺伝子、言語、自意識の謎に迫る~(PHP 新書 1432)

長谷川 眞理子 著 PHP研究所

ヒトは本来「利他的」なのになぜ争うのか。チンパンジーにヒトのような言語能力はあるのか。遺伝子、言語、自意識という3つの謎を進化生物学の知見から読み解き、"人間の正体"に迫る。『Voice』連載を大幅に加筆。

読売新聞 2025/09/14

2025:6./ 235p 978-4-569-85941-5 ¥1,155〔稅込〕





ぼくのシェフ(くもんの児童文学)

長谷川 まりる 著

くもん出版

奇病が国に広がる2年前、有名シェフの息子シャールは貧民街で暮らす男の子・アズレと出会う。シャールはアズレに料理と字を教え始めるが…。料理をテーマに描く、少年たちの友情と命の物語。登場する料理のレシピ付き。

2025:7./ 243p 978-4-7743-3894-1 ¥1,650〔税込〕



読売新聞 2025/09/14



エレベーターのボタンを全部押さないでください

川内 有緒 著

ホーム社

メキシコの走る民族、飼っていた2匹の個性的な猫…。海外での驚くべき旅や出会い、日常に潜む冒険のような出来事、そして死生観などを綴った、ノンフィクション作家・川内有緒の初エッセイ集。

2025:6./ 253p 978-4-8342-5401-3 ¥1,980〔税込〕



読売新聞 2025/09/14



激しく煌めく短い命

綿矢 りさ 著 文藝春秋

京都に暮らす久乃は、中学校の入学式で出会った同級生の綸にひと目で惹かれた。ふたりは周囲の偏見にも負けず、手さぐりで愛をはぐくんでいくが、あることがきっかけで決定的に引き裂かれ…。『文學界』掲載を改稿し単行本化。

2025:8./ 634p 978-4-16-392009-2 ¥2,585〔税込〕



読売新聞 2025/09/14、毎日新聞 2025/09/20、朝日新聞 2025/09/27



ゲド戦記<別冊> 火明かり(岩波少年文庫 632)

アーシュラ・K. ル=グウィン 著

岩波書店

まどろみながら彼は、はてみ丸のことを考えていた。あの小さな舟で旅した日々を-。著者没後に公表された、ゲド戦記最後のエピソード「火明かり」ほか、未邦訳短編、エッセイ・講演等を収めた、日本語版オリジナル編集の別冊。

2025:5./ 253p 978-4-00-114632-5 ¥990〔税込〕



読売新聞 2025/09/21



歌の祭り(岩波文庫 赤 N509-3)

ル・クレジオ 著

岩波書店

攻撃ではなく優しさ、叫びや饒舌ではなく沈黙、征服ではなく融合-。南北両アメリカに生きる先住民たちの生活の美しさと秘められた知恵、深遠な宇宙観を、みずみずしくかつ硬質な文体で描いた民族誌。

2025:6./ 339p 978-4-00-375172-5 ¥1,155〔税込〕





名画を見る眼〜カラー版〜<1> 油彩画誕生からマネまで(岩波新書 新赤版 1976)

高階 秀爾 著

岩波書店

西洋絵画の本質を一歩進んで理解したい人に向けた西洋美術鑑賞の手引き。1 は、ルネサンスから 19 世紀までの 15 点の代表的名画を取りあげ、絵画を楽しむ基本や、隠された意図・意味を探りながら解説する。

2023:5./ 238p 978-4-00-431976-4 ¥1,364〔稅込〕



読売新聞 2025/09/21



名画を見る眼〜カラー版〜<2> 印象派からピカソまで(岩波新書 新赤版 1977)

高階 秀爾 著

岩波書店

西洋絵画の本質を一歩進んで理解したい人に向けた西洋美術鑑賞の手引き。2は、モネ、ゴッホ、ピカソなど、印象派から抽象絵画へと続く近代の名画を取りあげ、鑑賞の基礎を日記や手紙など画家の言葉とともに解説する。

2023:6./ 254p 978-4-00-431977-1 ¥1,364〔稅込〕



読売新聞 2025/09/21



大いなる遺産~新訳~<上>(角川文庫 テ 7-4)

ディケンズ 著

KADOKAWA

両親と死別して孤児になり、鍛冶屋の修業を始めたピップに、匿名の人物から巨額の 遺産が贈られるという知らせが届いた。ピップは紳士修業のためにロンドンに旅立つ が…。英国文学の金字塔を新訳。 2025:6./ 415p 978-4-04-115282-9 ¥1,078〔税込〕



読売新聞 2025/09/21



大いなる遺産~新訳~<下>(角川文庫 テ 7-5)

ディケンズ 著

KADOKAWA

成り上がりの紳士となったピップの前に、思ってもみなかった人物が現れ、夢の人生はおかしな方向へ。エステラの結婚の噂、ピップの恩人の謎、殺人事件の犯人は…。 英国文学の金字塔を、ラストの真意がわかるよう新訳。 2025:6./ 431p 978-4-04-115285-0 ¥1,078〔税込〕



読売新聞 2025/09/21



「あの戦争」は何だったのか(講談社現代新書 2780)

辻田 真佐憲 著

講談社

日本はどこで「間違えた」のか。そもそもいつ始まったのか。掲げた理想はすべて誤りだったのか。「大東亜」は日本をどう見ていたか-。日本の近現代史の素朴な「なぜ」に答え、「あの戦争」を問い直す。

978-4-06-540499-7 ¥1,155〔税込〕

2025:7./ 286p





情熱

桜木 紫乃 著

集英社

40年ぶりに再会を果たした同級生のカメラマンとスタイリスト、「ボケたら関係解消」が条件の70代ホストと美容師…。生き惑う大人たちの物語全6編。『すばる』『小説新潮』掲載を単行本化。

2025:7./ 184p 978-4-08-770007-7

¥1,815〔稅込〕



読売新聞 2025/09/21



名画が愛した女たち~画家とモデルの物語~

木島 俊介 著

集英社

ボッティチェリとシモネッタ・ヴェスプッチ、レオナルド・ダ・ヴィンチとモナ・リザ、ラファエロとマッダレーナ・ドーニ…。ルネッサンス期における画家と、彼らが魅せられた美しいモデルたちの物語。

2012:1./ 254p 978-4-08-781487-3 ¥2,420〔税込〕



読売新聞 2025/09/21



日本美術・この一点への旅

山下 裕二 著

集英社

この作品を見るために旅しよう! 47 都道府県を網羅し、縄文から平成まで、ぜひ見てほしい日本美術の名作や知られざる逸品をオールカラーで詳しく解説する。『エクラ』連載を加筆し書籍化。データ:2023 年 9 月現在。

2023:9./ 159p 978-4-08-781742-3 ¥2,420〔税込〕



読売新聞 2025/09/21



奇想の系譜 新版

辻 惟雄 著

小学館

岩佐又兵衛、狩野山雪、伊藤若冲…。アヴァンギャルドな絵師 6 名の江戸絵画をオールカラーで紹介し、江戸時代における表現主義的傾向の画家の系譜をたどる。図版を追加し、加筆修正した新版。

2019:2./ 223p 978-4-09-682289-0 ¥5,500〔税込〕



読売新聞 2025/09/21

王朝絵画の誕生~『源氏物語絵巻』をめぐって~(中公新書)

秋山 光和 著中央公論新社

読売新聞 2025/09/21

1982:2./ 205p





大田昌秀~沖縄の苦悶を体現した学者政治家~(中公新書 2865)

野添 文彬 著

中央公論新社

沖縄戦で死線を彷徨い、戦後は論壇で活躍。沖縄県知事に就任した後は米軍基地問題と対峙した大田昌秀。100冊以上の自著で沖縄の苦悩を記し、沖縄現代史と共に歩んだその生涯に迫る。略年表も収録。

2025:7./ 256p 978-4-12-102865-5 ¥1,078〔税込〕



読売新聞 2025/09/21



蓼喰ふ虫(中公文庫 た 30-65)

谷崎潤一郎 著 中央公論新社

互いに愛人がいながら離婚にふみきれない中年夫婦の、一見おだやかな日常を古典への愛をとりまぜて描く。著者・谷崎潤一郎の当時の実生活が色濃く反映された作品。 小出楢重の挿絵 80 余点を完全収載。 2024:5./ 319p 978-4-12-207520-7 ¥990〔税込〕



読売新聞 2025/09/21



思想としての批評〜明治期東アジア哲学における展開〜

郭 馳洋 著東京大学出版会

近代日本思想の黎明期に「批評」概念はいかにして生まれたのか。大西祝、井上哲次郎、章炳麟らを軸に、対象の根拠を問う知的営みとしての「批評」概念の変遷と展開を描く。

2025:7./ 432p 978-4-13-016054-4 ¥10,340〔税込〕



読売新聞 2025/09/21



おまえレベルの話はしてない

芦沢 央 著

河出書房新社

棋士という夢を追って切磋琢磨してきた芝と大島。芝は夢を叶えたものの成績が低迷、一方の大島は夢を諦め弁護士になった。今も消えない互いへの嫉妬、羨望、侮蔑。その行方にあるのは…? 『スピン』掲載などを単行本化。

2025:9./ 185p 978-4-309-03225-2 ¥1,815〔稅込〕



読売新聞 2025/09/21



イメージの歴史(ちくま学芸文庫 ワ 4-4)

若桑 みどり 著

筑摩書房

アダムをそそのかしたエバ、自由の女神…。その図像は何を意味してきたのか? 西欧 文明が繰り返し描いてきたイメージにメスを入れ、その精神的・社会的な背景を明らかにする。人間の想像力に新たな光を当てる美術史。

2012:3./ 448p 978-4-480-09432-2 ¥1,650〔稅込〕





自画像の告白~「私」と「わたし」が出会うとき~

森村 泰昌 著 筑摩書房

レオナルド・ダ・ヴィンチ、ディエゴ・ベラスケス...。時空を超えて召喚された美術 史上の巨匠たち 12 人が、それぞれの「私」を語りだす。大阪・国立国際美術館「自 画像の美術史」展で発表された映像作品を書籍化。 2016:3./ 167p 978-4-480-87386-6 ¥2,530〔税込〕



読売新聞 2025/09/21



風になるにはまだ(創元日本 SF 叢書 29)

笹原 千波 著 東京創元社

病気や障害で生身の体で生きることが難しい人々が"情報人格"として仮想世界で暮らせるようになった近未来。情報人格の小春は、1日だけ体を貸りるサービスを利用し…。第13回創元 SF 短編賞受賞作にはじまる連作短編集。

2025:8./ 285p 978-4-488-02106-1 ¥2,090〔税込〕



読売新聞 2025/09/21



これでわかる!韓国のくらしの常識~イラストで見る文化、習慣、マナー、 ちょっといい話まで~

ルナ・キョン 著

原書房

通貨や言葉、礼儀作法、韓国料理、祝日とお祭り、韓服や武芸、K-POP や韓国ドラマ、観光地…。伝統的な文化や最先端の流行まで、気になる韓国の日常の 1 コマをかわいいイラストでやさしく解説します。

2025:7./ 143p 978-4-562-07556-0 ¥1,980〔税込〕



読売新聞 2025/09/21



老いと介護の日本史~「認知症」への眼差し~(歴史文化ライブラリー 620)

新村 拓著

吉川弘文館

古来、老化にともなう病や認知症(老耄)がいかに認識され、患う人びとがどのように介護され生活してきたのか。「続日本紀」「源氏物語」「徒然草」「官刻孝義録」などの老人や老病に関わる記述から通史的に描き、実態に迫る。

2025:7./ 200p 978-4-642-30620-1 ¥1,870〔税込〕



読売新聞 2025/09/21



災後テレビドラマ論~震災後・コロナ禍後をどう描いてきたのか~

米倉 律 著

青弓社

東日本大震災やコロナ禍で、何が変わり/変わらなかったのか。様々な「災後テレビドラマ」を取り上げて、災禍にテレビドラマがどう向き合い、それによって何を伝えようとしたのかを明らかにし、日本社会のありようを考究する。

読売新聞 2025/09/21

2025:7./ 248p 978-4-7872-3564-0 ¥2,860〔税込〕





国籍のゆらぎ、たしかなわたし~線をひくのはだれか?~

本下 理仁/安田 菜津紀/サンドラ・ヘフェリン/サヘル・ローズ/長谷川 留理華 /金 迅野/加藤 丈太郎/三木 幸美 著

太郎次郎社エディタス

国籍やルーツとアイデンティティ、ステレオタイプと差別意識、「線引き」と「当事者」の意味について考察する、さまざまな背景をもつ人々との往復書簡、鼎談を収録する。ウェブマガジン連載に書き下ろしを加え書籍化。

2025:6./ 254p 978-4-8118-0868-0

¥2,200〔税込〕



読売新聞 2025/09/21



イメージの修辞学~ことばと形象の交叉~

西村 清和 著

三元社

ことばとイメージの連関の仕組とは? 「読書とイメージ」「視覚的隠喩」「小説の映画化」「<物語る絵>のナラトロジー」など5つの視点から、ことばと形象の交叉がもたらす経験と歴史的変遷を、多くの実例を交えて論じる。

2017:5./ 544p 978-4-88303-441-3 ¥6,050〔税込〕



読売新聞 2025/09/21



柳宗玄著作選<1> 西洋の誕生

柳 宗玄 著

八坂書房

西欧の周縁に遺された「かたち」との対話を通じて、異教的母胎からのキリスト教美術の誕生の過程を浮彫りにしつつ、西洋文明の本質、さらには洋の東西を超えた造形という営為の源泉にまで、透徹した眼差しを向ける論考。

2007:6./ 418p 978-4-89694-759-5 ¥6,380〔税込〕



読売新聞 2025/09/21



『女工哀史』は生きている〜細井和喜蔵と貧困日本〜(岩波ブックレット No.1110)

松本 満、斎藤 美奈子 著

岩波書店

当時無名の若者だった細井和喜蔵が、悲惨な工場労働者の実態を内部告発した「女工 哀史」。読めば働く人たちの息遣いが聞こえ、「古典」のイメージを覆す。刊行から 100年、現代にこそ有効な作品世界の魅力を余さず読み解く。 2025:7./ 79p 978-4-00-271110-2 ¥748〔税込〕



読売新聞 2025/09/28



風の歌を聴け(講談社文庫)

村上 春樹 著

講談社

1970年の夏、海辺の街に帰省した<僕>は、友人の<鼠>とビールを飲み、介抱した女の子と親しくなって、退屈な時を送る。2人それぞれの愛の屈託をさりげなく受けとめてやるうちに、<僕>の夏はものうく、ほろ苦く過ぎさっていく。

読売新聞 2025/09/28

2004:9./ 160p 978-4-06-274870-4 ¥638〔稅込〕





柳田國男計画する先祖たちの神話

長崎 健吾 著

講談社

柳田國男は「先祖」を通して何を問うたのか?中世史研究者が、「先祖」「家」「信仰」を軸にその思想の展開と帰結をたどるとともに、時代と共に生きた思想家・柳田國男の本質に迫る。

2025:8./ 279p 978-4-06-540088-3 ¥2,365〔税込〕



読売新聞 2025/09/28



御家騒動(講談社学術文庫 2875)

福田 千鶴 著

講談社

鍋島騒動、黒田騒動、柳川一件…。時代小説などでおなじみの"大名家のスキャンダル"を歴史学の眼で徹底検証。当事者の行動原理を探り、「忠臣が御家を救う」勧善懲悪物語ではない時代のリアリティを読み解く。

2025:7./ 269p 978-4-06-540246-7 ¥1,430〔税込〕



読売新聞 2025/09/28



街とその不確かな壁<上巻>(新潮文庫 む-5-46)

村上 春樹 著

新潮社

高い壁と望楼に囲まれた謎めいた街に"本当のきみ"がいるという。<古い夢>が並ぶ図書館、石造りの3つの橋、針のない時計台、角笛と金色の獣たち…。その街では人々は影を持たなくて…。2つの世界を往還する物語。

2025:5./ 457p 978-4-10-100178-4 ¥990〔税込〕



読売新聞 2025/09/28



街とその不確かな壁<下巻>(新潮文庫 む-5-47)

村上 春樹 著

新潮社

ある日、イエロー・サブマリンの絵のヨットパーカーを着て、図書館のあらゆる本を 読み尽くす少年があらわれる。彼は自ら描いた謎めいた"街"の地図を携え、影を棄て て壁の内側に入りたいと言い…。2つの世界を往還する物語。 2025:5./ 416p 978-4-10-100179-1 ¥935〔税込〕



読売新聞 2025/09/28



メルヒェン 改版(新潮文庫 へ-1-17)

ヘルマン・ヘッセ 著

新潮社

誰からも愛される子に、という母の祈りが叶えられ、少年は人々の愛に包まれて育つが…。愛されることの幸福と不幸を掘り下げた「アウグスツス」ほか、おとなの心に純朴な子どもの魂を呼び起す、珠玉の創作童話全9編を収録。

読売新聞 2025/09/28

2017:9./ 213p 978-4-10-200117-2 ¥605〔税込〕





老人と海(新潮文庫 へ-2-4)

アーネスト・ヘミングウェイ 著

新潮社

84 日間の不漁に見舞われた老漁師は、ひとり小舟で海へ出た。やがてその釣綱に、 大物の手応えが。見たこともない巨大カジキとの死闘を繰り広げた老人に、海はさら なる試練を課すのだが…。世界文学の金字塔を新訳。

2020:7./ 191p 978-4-10-210018-9

¥572〔稅込〕



読売新聞 2025/09/28



灯台へ(新潮文庫 ウ-28-1)

ヴァージニア・ウルフ 著 新潮社

スコットランドの小島のある夏の1日と、第一次大戦を経た10年後の1日。たった 2日の出来事を綴ることによって愛の力を描き出し、文学史を永遠に塗り替え、女性 作家の地歩をも確立したイギリス文学の傑作。

2024:10./419p 978-4-10-210702-7

¥935〔稅込〕



読売新聞 2025/09/28



ゴールデンボーイ~恐怖の四季 春夏編~ 改版(新潮文庫 キ-3-12)

スティーヴン・キング 著 新潮社 読売新聞 2025/09/28

2010:8./507p 978-4-10-219312-9 ¥1,100〔稅込〕





イラクサ(CREST BOOKS)

アリス・マンロー 著

新潮社

旅仕事の父に伴われてやってきた少年とある町の少女。30年後に再会した2人の特 別な絆を描いた表題作のほか、「恋占い」「記憶に残っていること」など8篇を収録 した、名匠マンローによる大人のための極上の短篇集。

2006:3./ 445p 978-4-10-590053-3 ¥3,080〔稅込〕



読売新聞 2025/09/28



侍女の物語(ハヤカワepi文庫)

マーガレット・アトウッド 著

早川書房

読売新聞 2025/09/28

2001:10./573p 978-4-15-120011-3 ¥1,320〔稅込〕





遠い山なみの光 新版(ハヤカワ epi 文庫 117)

カズオ・イシグロ 著

早川書房

英国で暮らす悦子は、娘を自殺で失い、故郷での日々を振り返る。戦後の長崎で出会 った母娘との友情の記憶は、やがて不穏の色を濃くしていき...。文芸評論家・三宅香 帆の解説を付した新版。2025年9月公開映画の原作。

¥1,342〔稅込〕

2025:6./301p

978-4-15-120117-2



GB84<上>

デイヴィッド・ピース 著

文藝春秋

1984年。イギリス政府は一方的に炭鉱の閉鎖を決定した。これにより失職する労働 者は2万人。全国炭鉱労働組合委員長スカーギルは、イギリス全土でのストライキを 宣言した。しかし政府は警官による鎮圧を図り...。

2025:8./366p 978-4-16-392004-7

¥3,190〔税込〕



読売新聞 2025/09/28



GB84<下>

デイヴィッド・ピース 著

文藝春秋

ストライキは30週間に迫り、国家による弾圧は激化の一途をたどる。ストライキを 潰すための汚れ仕事に従事する男たち。己の罪と恐怖に囚われた男たちの眠れぬ夜 は、いかなるかたちで終わるのか?

2025:8./351p 978-4-16-392005-4 ¥3,190〔稅込〕



読売新聞 2025/09/28



白鷺立つ

住田 祐 著 文藝春秋

天明飢饉の傷痕いまだ癒えぬ比叡山延暦寺に、失敗すれば死といわれる千日回峰行を 成し遂げようとする2人の仏僧がいた。歴史に名を残すための闘いは、やがて業火と なり叡山を飲み込んでいく-。

2025:9./301p 978-4-16-392014-6 ¥1,760〔稅込〕



読売新聞 2025/09/28



その人らしさなくならない

恩蔵 絢子著

大泉書店

おかあさんのやさしい目をみるとわかる。わたしのことを愛してくれているっていう ことが-。脳科学者の娘が、認知症の母と過ごした大切な日々を綴った絵本。解説 「脳科学者からみた認知症」も収録する。

2025:9./40p 978-4-278-08720-8 ¥1,870〔稅込〕



読売新聞 2025/09/28



消滅世界(河出文庫 む 4-1)

村田 沙耶香 著 河出書房新社

人工授精で子を産むことが定着した世界。「両親が愛し合った末」に生まれた雨音は 母に嫌悪感を抱いていた。雨音は清潔な結婚生活を送り、夫以外のヒトやキャラと恋 愛を重ねる日々を送るが、それは移住した実験都市で一変し...。

¥693〔稅込〕

978-4-309-41621-2

2018:7./ 283p



読売新聞 2025/09/28



安倍宗任伝~前九年・後三年合戦~

平谷 美樹 著 実業之日本社

平安中期、陸奥国奥六郡を治める豪族・安倍氏は、源頼義・義家親子が率いる朝廷軍に圧倒され、滅亡の危機に追い込まれる。そこで、若き勇将・宗任が繰り出した秘策とは…。『胆江日日新聞』連載を改題、大幅に加筆・修正。

2025:7./ 509p 978-4-408-53883-9 ¥2,530〔税込〕



読売新聞 2025/09/28



ジャポニスム〜幻想の日本〜(ちくま学芸文庫 マ 59-1)

馬渕 明子 著

筑摩書房

ジャポニスムの定義から起こして、印象派・ウィーン分離派ほか多数の作品や当時の評論をもとに、19世紀後半に日本美術が西洋美術に与えたインパクトとその意味を詳細に解説する。絵画図版も多数掲載。

2025:8./ 384p 978-4-480-51317-5 ¥1,650〔税込〕



読売新聞 2025/09/28



9月1日の朝へ

椰月美智子 著双葉社

9月1日は、日本で子どもがいちばん多く命を絶ってしまう日。父親と、3人の「母親」がいる高永家の4兄妹が夏休みに知った、痛み、喪失、孤独とは-。静かな感動が胸を満たす青春家族小説。『小説推理』連載に加筆、訂正。

2025:8./ 276p 978-4-575-24831-9 ¥1,870〔税込〕



読売新聞 2025/09/28



ショスタコーヴィチを語る~亀山郁夫対談集~

亀山郁夫 著

青土社

激動の時代を生きた作曲家ショスタコーヴィチ。様々な評価にさらされながら、その作品はいまなお私たちの心をゆさぶる。この稀有な才能について、日本を代表するロシア文学者が、各界の第一人者とあますところなく語りつくす。

2025:7./ 554p 978-4-7917-7727-3 ¥5,060〔税込〕



読売新聞 2025/09/28



「自由と民主」の世界史〜失われた近代を求めて〜<1> 原初・ギリシャ・ローマからヨーロッパの自己形成まで

河東 哲夫 著

藤原書店

古代以来の世界史を元外交官が自在な筆致で描き、「近代」実現の過程とその意味を問う。1は、古代文明から、ローマ帝国、オリエント、中世のヨーロッパ、西欧白人文明の台頭までを収録。

読売新聞 2025/09/28

2025:6./ 494p 978-4-86578-459-6 ¥3,960〔税込〕





「自由と民主」の世界史~失われた近代を求めて~<2> 産業革命と近代の構 築、そしてその先

2025:6./ 478p 978-4-86578-460-2 ¥3,960〔税込〕



河東 哲夫 著

藤原書店

古代以来の世界史を元外交官が自在な筆致で描き、「近代」実現の過程とその意味を 問う。2は、オランダの繁栄と英国の興降から、産業革命と近代社会の成立、中国経 済発展の途、近代の完成と魔変までを収録。

読売新聞 2025/09/28



地方女子たちの選択

上野 千鶴子、山内 マリコ、藤井 聡子 著

桂書房

地方都市の女性たちは、なにを背負い、苦しみ、逃げ、求め、摑み、どう生きてきた のか。富山出身の2人の著者が、富山にゆかりのある女性14人の語りを聞き取り、 その貴重な声を伝える。

読売新聞 2025/09/28

2025:7./ 265p 978-4-86627-165-1 ¥1,980〔稅込〕





最高裁長官石田和外~日本的司法を定礎した天皇主義者~

西川 伸一 著

岩波書店

1969年、第五代最高裁長官に就任した石田和外。今日に至る、人権よりも秩序重視 の「日本的司法」の礎を築き、退官後は「日本会議」の前身を結成した天皇主義者の 実像を描く。年譜も収録。

2025:6./ 342p 978-4-00-061701-7 ¥3,190〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/06



野心のすすめ

オーストリア皇太子の日本日記~明治二十六年夏の記録~(講談社学術文庫)

フランツ・フェルディナント 著

講談社

日本経済新聞 2025/09/06

2005:9./ 237p

2013:4./ 191p



野心のすすめ(講談社現代新書 2201)



講談社

林 真理子 著

40 数戦全敗に終わった就職試験、お金、コネ、資格、美貌、ないない尽くしのどん 底からどうやって階段を上っていったのか。無理と言われた願望をすべて叶えてきた 著者が、夢を実現させるヒントを紹介する。

¥990〔税込〕

978-4-06-288201-9



日本経済新聞 2025/09/06



夫のちんぽが入らない(講談社文庫 こ 92-1)

こだま 著

講談社

初めて体を重ねようとした夜、彼の性器が全く入らなかった。その後も2人は「入らない」一方で精神的な結びつきを強くしていき、結婚。しかし…。「入らない」2人の生活を、ユーモア溢れる筆致で綴る。文庫版エッセイも収録。

2018:9./ 249p 978-4-06-512970-8 ¥660〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/06



男子の本懐 改版(新潮文庫)

城山 三郎 著 新潮社

日本経済新聞 2025/09/06

2005:10./ 478p 978-4-10-113315-7 ¥935〔税込〕





会話の 0.2 秒を言語学する

水野 太貴 著

新潮社

会話中、返事をするまでの 0.2 秒にどんな駆け引きや奇跡が起きているのか。言語学の歴史を振り返りつつ、「食べログ」レビューからお笑いに日銀総裁の会見、人気漫画までを俎上に載せ、日常の言語学を解き明かす。

2025:8./ 236p 978-4-10-356431-7 ¥1,760〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/06



遺伝子は不滅である

リチャード・ドーキンス 著

早川書房

樹皮やコケそっくりに擬態するトカゲ、陸から海へ戻ったクジラ、超音波を使うイルカとコウモリの意外な共通点…。驚異に満ちた進化の物語の数々を、美しいカラーイラストとともに紹介。「遺伝子視点」で生命史全体を俯瞰する。

2025:7./ 383p 978-4-15-210444-1 ¥4,950〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/06



坂の上の雲<1> 新装版(文春文庫)

司馬 遼太郎 著

文芸春秋

松山出身の歌人正岡子規と軍人の秋山好古・真之兄弟の三人を軸に、維新から日露戦 争の勝利に至る明治日本を描く大河小説。 1999:1./ 350p 978-4-16-710576-1 ¥825〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/06



複合インフレの罠~大規模金融緩和の誤算~

水野温氏 著

日経BP社

人口動態やエネルギー政策、社会インフラなど日本が直面する困難を見据えつつ、粘着的な物価高の構造的な要因を説き、政策運営全般の矛盾を鋭く指摘。具体的な課題を提示するとともに、政府・日銀に決断を迫る。

2024:4./ 292p 978-4-296-11991-2 ¥2,640〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/06



ファイナンスの世界史~金融技術と金融ビジネスの歩み~

大村 敬一 著

日経BP社

十字軍遠征からバブル崩壊、リーマン・ショックまで。経済発展の縁の下の力持ちとして成長・進化していった「ファイナンス」が、先進国を破滅の淵に追い詰めるまでを、様々なエピソードを交えて興味深く解説する。

2025:7./ 421p 978-4-296-12419-0 ¥3,520〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/06



お土産の文化人類学〜地域性と真正性をめぐって〜

鈴木 美香子 著

人文書院

なぜこれほどまで全国に似たような菓子土産があふれるようになったのか、そもそもなぜ土産を購入するのか。日本における土産の歴史と現在を、詳細な資料調査と文化人類学の手法によって解き明かす。

2025:7./ 194p 978-4-409-53052-8 ¥2,640〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/06



大人も知らないみのまわりの謎大全

ネルノダイスキ 著

ダイヤモンド社

日本の「ふつうの街」にやってきた宇宙人のマチオとシラベは、住宅街や商店街、河原、駅前でさまざまな謎に遭遇。その正体とは…? 街中でよく見るものの名前や機能などをまんがで詳しく解説する。

2025:3./ 301p 978-4-478-11767-5 ¥1,650〔稅込〕



日本経済新聞 2025/09/06



いのちをまもる図鑑~最強のピンチ脱出マニュアル~

滝乃みわこ 著

ダイヤモンド社

ハチに襲われた! クマに遭遇した! 目の前で人がおぼれている! アメがのどにつまった! 不審者がついてくる! 日常で遭遇する可能性のある 76 の危険と、その対処法を、楽しいイラストとともに紹介する。

日本経済新聞 2025/09/06

2024:7./ 262p 978-4-478-11938-9 ¥1,485〔税込〕





サイコパスから見た世界~「共感能力が欠落した人」がこうして職場を地獄 にする~

2025:8./334p 978-4-492-22430-4 ¥2,200〔稅込〕



デイヴィッド・ギレスピー 著

東洋経済新報社

20人に1人の割合で存在するサイコパス。彼らはどんな特徴をもち、どのように組 織を破滅せるのか?どうしたら彼らを見分け、その有害な影響を排除できるのか?脳 科学や事例を通して、その実像と対策を解説する。

日本経済新聞 2025/09/06

金融社会主義~クラッシュに続く混乱と清算の30年~

高田 創、柴崎 健、石原 哲夫 著 東洋経済新報社

サブプライム危機を経て、グローバルな金融資本市場は「金融社会主義」の時代に突 入した。公的セクターの急膨張や実体経済の金融商品化というダイナミックな変化を 踏まえて、来るべき30年の金融のフロンティアを探る。

2009:6./ 240p 978-4-492-65425-5 ¥1,980〔稅込〕



日本経済新聞 2025/09/06



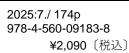
リベラリズムの捕食者~AI 帝国で自由はどのように貪られるのか~

ジュリアーノ・ダ・エンポリ 著

白水社

国連総会から、砂漠のダボス会議、AI 帝国の布教セミナーまで-。権力闘争の最前線 は、捕食者の時代に突入した! リベラル民主主義を食い破るものたちの権謀術数が恐 いほどわかる、テクノ封建制下の「君主論」。

日本経済新聞 2025/09/06







激論日本の民主主義に将来はあるか

岡崎 久彦、長谷川 三千子 著 海竜社

そもそも、民主主義とは何か?民主主義は理にかなっているか?日本型民主主義は可 能か?初代情報調査局長・岡崎久彦と、日本会議代表委員・長谷川三千子が、民主主 義について激論を交わす。

日本経済新聞 2025/09/06





日本人戦犯裁判とフランス~インドシナ・サイゴン裁判・東京裁判をめぐる 攻防~

難波 ちづる 著 慶應義塾大学出版会

アジア・太平洋戦争下で日本人によってなされた戦争犯罪を、フランスはどのように 裁いたのか。日仏越の最新の資料を用いて、忘却された戦犯裁判の実態と、そこに表 れる植民地主義の根深さに迫る。

日本経済新聞 2025/09/06

2025:6./ 256p 978-4-7664-3035-6 ¥2,860〔稅込〕





昭和ノンフィクション名作選(インターナショナル新書 159)

石戸 諭 著

集英社インターナショナル

日本の「ノンフィクション」は、昭和期、とりわけ戦後に隆盛を迎えた。スポーツノンフィクションの金字塔「江夏の 21 球」など、転換点となった重要な作品を深掘りする。『kotoba』連載を加筆・修正。

2025:8./ 221p 978-4-7976-8159-8 ¥1,067〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/06



日本の防衛政策~冷戦後の 30 年と現在~

杉本 康士 著

作品社

これからの日本の<平和>をどうするのか?石破茂首相らに取材し、日本の防衛戦略がどのような過程をたどり形成されてきたのかを解き明かす。産経新聞のニュースサイトでの連載を基に単行本化。詳細年表付き。

2025:6./ 394p 978-4-86793-088-5 ¥2,970〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/06



南海王国記

飯嶋 和一著

「信」の失われた世界に、再び「信」を取り戻すため武人として生きる決意をした青年。1661年、西洋人がフォルモサと呼んだその島に青年が建てた国は、僅か 22年の間だけ輝き…。『STORY BOX』連載を単行本化。

2025:8./ 507p 978-4-09-386758-0 ¥2,530〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/06、産経新聞 2025/09/14



ホワイトカラー消滅〜私たちは働き方をどう変えるべきか〜(NHK 出版新書 728)

冨山 和彦 著

NHK出版

人手不足とデジタル化による人余りが同時に起きつつある日本社会。ホワイトカラーは、生き残る選択肢がほとんどなくなっていく。企業再生支援の第一人者が、ホワイトカラーの存在価値と働き場所を新たに見出す方策を示す。

2024:10./ 302p 978-4-14-088728-8 ¥1,133〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/06、朝日新聞 2025/09/27



人はなぜ結婚するのか〜性愛・親子の変遷からパートナーシップまで〜(中公新書 2859)

筒井 淳也 著中央公論新社

結婚のあり方について議論がすれ違うなか、共同性、性愛関係、親子関係の3点で結婚制度の歴史的変遷を根源から整理。自由化した結婚が抱える「しんどさ」や、現行制度の本質、今後のゆくえを展望する。

日本経済新聞 2025/09/06、読売新聞 2025/09/14

2025:6./ 256p 978-4-12-102859-4 ¥990〔税込〕





知里幸惠日記・書簡集(角川ソフィア文庫 D135-1)

知里 幸惠 著

KADOKAWA

アイヌとして初めてカムイユカラを文字に表した「アイヌ神謡集」を残し、19歳でこの世を去った知里幸惠。アイヌ語を伝える使命と向き合い、家族を案じながら生きた姿を記した日記・手紙類を収録。新資料も多数掲載。

2025:8./ 395p 978-4-04-400834-5 ¥1,430〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/06、読売新聞 2025/09/28



戦争みたいな味がする

グレイス・M・チョー/石山 徳子 著

集英社

在韓米軍基地周辺で働いていた母親は、アメリカ人男性との結婚を機に渡米し、新生活を切り拓いていくが…。戦争、移民、家族と食。母娘の記憶から現代社会の論点を浮き彫りにする、コリア系アメリカ人社会学者による回想録。

2025:7./ 437p 978-4-08-789021-1 ¥3,080〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/06、毎日新聞 2025/09/20



三池炭鉱の社会史~石炭と人の近代~

猪飼 隆明 著

岩波書店

三池炭鉱は、藩営による開坑から 1997 年の閉山に至るまで、国策に左右されながら、日本の近現代史に独特の足跡を残してきた。その歴史的経験の全体像を、労働争議と地域社会の関わりに注目しつつ通史的に描き出す。

2025:6./ 418p 978-4-00-024898-3 ¥4,070〔稅込〕



日本経済新聞 2025/09/13



男女の進学格差はなぜ埋まらないのか? \sim 「ジェンダー・トラック」について考える \sim (岩波ブックレット No.1108)

中西 祐子 著

岩波書店

先進諸国で大学進学の男女格差が最も大きい日本。「隠れたカリキュラム」やペアレントクラシー(親の教育期待・教育投資)に見られる男女間格差など、国際統計を含む 多彩なデータから社会のあり方を検証する。 2025:5./ 76p 978-4-00-271108-9 ¥748〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/13



インドの野心〜人口・経済・外交-急成長する「大国」の実像〜(朝日新書 1014)

石原孝、伊藤弘毅 著

朝日新聞出版

14 億人超が暮らし、人口世界一となったインド。20 年代後半には GDP で米中に次ぐ世界第3位になると予測される。朝日新聞ニューデリー支局の記者たちが、教育・外交・経済・文化的側面から、インドの今に迫る。

日本経済新聞 2025/09/13

2025:8./ 269p 978-4-02-295331-5 ¥990〔税込〕





クラフトビール入門〜飲みながら考えるビール業界と社会〜(角川新書 K-491)

沖 俊彦 著

KADOKAWA

「地ビール」とは何が違う? 大手メーカーが作っても「クラフト」? 独自の発展を見せる日本のクラフトビールの歴史、製法、商品の選び方から業界が抱える課題までを、北米ビールライター組合正会員がレポートする。

2025:8./ 231p 978-4-04-082541-0 ¥1,056〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/13



柳宗悦〜美を生きた宗教哲学者〜(NHK ブックス 1296)

若松 英輔 著

NHK出版

民衆の日常で使われていた雑器を「民藝」と名付け、その美の中に救いを見出した柳宗悦。文学・哲学・宗教など様々な分野の人物と交流のあった生涯と、彼の代表作から、その思想を鮮やかに描き出す。

2025:8./ 337p 978-4-14-091296-6 ¥1,980〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/13



漢字ふむふむ(文春文庫 編 19-5)

NHK「漢字ふむふむ」制作チーム編 著

文藝春秋

日本と中国では同じ漢字なのに意味が微妙にすれ違っていたり、正反対だったり。 「羊羹」「料理」「大丈夫」といった漢字を取り上げ、その知られざるルーツと遍歴 を深掘りする。NHK E テレ「漢字ふむふむ」を書籍化。 2025:7./ 263p 978-4-16-792393-8 ¥836〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/13



勝負師孫正義の冒険<上>

ライオネル・バーバー 著

日経BP社

ソフトバンク創業者で、ソフトバンクグループの CEO を務める孫正義。東洋と西洋をつなぎ、世界の常識を破壊した男の原点とは?『フィナンシャル・タイムズ』前編集長が、膨大な取材を元に描く伝記。

2025:6./ 341p 978-4-296-12028-4 ¥1,980〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/13



勝負師孫正義の冒険<下>

ライオネル・バーバー 著

日経BP社

ソフトバンク創業者で、ソフトバンクグループの CEO を務める孫正義。東洋と西洋をつなぎ、世界の常識を破壊した男の原点とは?『フィナンシャル・タイムズ』前編集長が、膨大な取材を元に描く伝記。

日本経済新聞 2025/09/13

2025:6./ 317p 978-4-296-12029-1 ¥1,980〔税込〕





なぜ地方女子は東大を目指さないのか(光文社新書 1325)

江森百花、川崎莉音 著 光文社

資格取得を重視し、自己評価が低く、浪人を避ける・。地方と女性という2つの属性がいかに進学における壁となっているのか。現役東大女子学生による緻密な調査・分析と豊富なインタビューを基にした提言の書。

2024:8./ 219p 978-4-334-10399-6 ¥946〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/13



なぜ理系に女性が少ないのか(幻冬舎新書 よ-10-1)

横山広美 著

幻冬舎

高等教育機関における理系分野の女性の学生の割合が OECD 諸国では最下位の日本。女子生徒の理科・数学の成績は世界でもトップクラスなのに、なぜ理系を選択しないのか。綿密なデータ分析からその理由を明らかにする。

2022:11./ 234p 978-4-344-98676-3 ¥1,034〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/13



教育にひそむジェンダー〜学校・家庭・メディアが「らしさ」を強いる〜 (ちくま新書 1834)

中野 円佳 著

筑摩書房

母性愛神話、マイクロアグレッション、性教育、別学・共学…。赤ちゃんから大学生まで、育児や教育を通して子どもたちに与えられるジェンダーイメージについて、教育社会学の知見や著者自身の子育て経験を踏まえて検証・考察。

2024:12./ 202p 978-4-480-07663-2 ¥946〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/13



蔣介石~「中華の復興」を実現した男~(ちくま新書 1873)

家近 亮子 著

筑摩書房

半植民地化されていた近代中国の国際的地位を飛躍的に押し上げたが、毛沢東と対立 し、中華人民共和国では長く「人民の公敵」とされてきた蔣介石。親日家として戦後 日本の運命を変えた蔣介石の素顔を描く。年表も収録。 2025:8./ 512p 978-4-480-07701-1 ¥1,540〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/13



別れを告げない(エクス・リブリス)

ハン・ガン 著

白水社

私の経験したことのすべてが結晶になる-。いま生きる力を取り戻そうとする女性同士が、済州島 4・3 事件を生き延びた母親の知られざる情熱をたどり、再生に向かう愛の物語。

日本経済新聞 2025/09/13

2024:4./ 321p 978-4-560-09091-6 ¥2,750〔税込〕





呼吸を取り戻せ〜肺移植がもたらす奇跡と悲劇〜

デヴィッド・ワイル 著

みすず書房

奇跡のような回復、悲劇のような別れ。移植医療は神がかり的で、人間的だ-。肺移 植に人生を捧げたデヴィッド・ワイル医師が、移植医療の現場を赤裸々に綴る迫真の ノンフィクション。

2025:8./ 322p 978-4-622-09798-3 ¥4,180〔稅込〕



日本経済新聞 2025/09/13



ナチス党員とはだれだったのか~ナチズムの軌跡と結末~

ウルリヒ・ヘルベルト 著

現代書館

ナチスという独裁体制の真の担い手とはだれか。20世紀初頭から第二次世界大戦以 後のドイツ社会に至るまで、学者、官僚らドイツの社会的エリートによって支えられ た体制の構造を解き明かす。第一人者の長年の研究成果を集成。

2025:7./ 348p 978-4-7684-5979-9 ¥4,400〔稅込〕



日本経済新聞 2025/09/13



呪文の言語学〜ルーマニアの魔女に耳をすませて〜

角 悠介 著 作品社

ルーマニアには古い魔女文化がいまも残っているとされている。東欧在住 20 年の言 語学者が、魔女大国とも呼ばれるこの地の民間伝承や実体験をひもとき、"呪文の正 体"に迫る。「言語学者から魔女へのインタビュー」も収録。

2025:8./ 252p 978-4-86793-104-2 ¥2,640〔稅込〕



日本経済新聞 2025/09/13



ムクの祈り~タブレット純自伝~

タブレット 純 著

リトル・モア

幼少の頃、我が家の飼い犬だったムク。人生をもがき、さまようほどに、ムクの瞳は 夜露となって、心を濡らすようになっていた...。異能かつ異端の存在「タブレット 純」が初めて綴る、泣き笑い青春記。

2024:12./ 197p 978-4-89815-600-1 ¥1,980〔稅込〕



日本経済新聞 2025/09/13



ミュージックシティで暮らそう~音楽エコシステムと新たな都市政策~

シェイン・シャピロ 著

黒鳥社

音楽を"社会のインフラ"ととらえ、まちづくりの戦略に音楽を取り入れる方法を解 説。世界各都市と実際に取り組んできた政策やプロジェクトを紹介しながら、都市に 音楽が根づくための条件をひもとく。

978-4-910801-02-5 ¥3,080〔稅込〕

2025:7./341p



日本経済新聞 2025/09/13



南方抑留~日本軍兵士、もう一つの悲劇~(新潮選書)

林 英一 著

新潮社

シベリア抑留の陰で繰り広げられていた、もう一つの悲劇「南方抑留」。敗戦の屈辱に耐えながら炎天下で重労働を強いられた兵士たちは、何を考え、どう行動したのか。彼らの日記や手記を読み解き、知られざる実態を解明する。

2025:7./ 236p 978-4-10-603933-1 ¥1,815〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/13、産経新聞 2025/09/28



Tシャツの日本史

高畑鍬名 著中央公論新社

<裾>をインするかアウトするか。ファッション史の壮大な死角である T シャツには、日本の同調圧力と美の仕組みが隠されていた・。夏目漱石の「赤シャツ」や石原裕次郎と太陽族など、T シャツの激動の 150 年を追う。

2025:8./ 253p 978-4-12-005940-7 ¥2,200〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/13、読売新聞 2025/09/21



ババヤガの夜(河出文庫 お 46-1)

王谷 晶 著河出書房新社

愛ではない。愛していないから憎みもしない。憎んでないから一緒にいられる-。暴力を唯一の趣味とする新道依子は、腕を買われ暴力団会長の一人娘を護衛することになり...。バイオレンスアクション。

2023:5./ 204p 978-4-309-41965-7

¥748〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/13、日本経済新聞 2025/09/20

職業としての学問(ワイド版岩波文庫 103)

マックス・ウェーバー 著

岩波書店

1919年にミュンヘンで行った講演の邦訳。第一次大戦後の混迷のドイツにおいて、生計を得る道としての学問と職業としての学問について語り、若者たちに学問と政策の峻別を説いた講演集。

1993:5./ 96p



日本経済新聞 2025/09/20



分岐点~「言論の自由」に殉じた朝日新聞もう一人の社主~

樋田 毅 著

岩波書店

強圧的な独裁体制に呑み込まれようとする時、一新聞社がどう抗うことができるのか。「朝日新聞社を人格化した人物」と評された男・上野精一の生涯を通して、組織ジャーナリズムの強さと弱さを見極める。

2025:8./ 254p 978-4-00-061712-3 ¥2,970〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/20



共通感覚論(岩波現代文庫 学術 1)

中村 雄二郎 著

岩波書店

古今の知見を縦横に駆使し、人間や芸術に関する多くの重要な問題がコモン・センス の問題にかかわることを明らかにした現代哲学の記念碑的著作。 2000:1./ 398p 978-4-00-600001-1

¥1,540〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/20



罪名、一万年愛す

吉田 修一著

KADOKAWA

探偵・遠刈田蘭平は富豪一族の三代目・梅田豊大から時価35億円の宝石「一万年愛す」の捜索を依頼される。創業者・梅田壮吾の米寿の祝いのため、蘭平は長崎の絶海の孤島を訪れることに…。『産経新聞』連載に加筆修正。

2024:10./ 268p 978-4-04-115030-6 ¥1,980〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/20



ブレイクダウン

砂川 文次 著

講談社

2001年。兄を亡くした陸上自衛官・市瀬の官舎に、異相の大男・佐川が訪ねてきて「あんたの兄弟は事故死じゃない。殺しだ」と言った。不可解な死の謎を追う2人に次々と危機が迫り…。『小説現代』掲載に加筆修正。

2025:8./ 519p 978-4-06-540433-1 ¥2,200〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/20



坊っちゃん 改版(新潮文庫)

夏目 漱石 著新潮社

日本経済新聞 2025/09/20

2003:4./ 216p 978-4-10-101003-8

¥341〔税込〕





知識基盤社会と大学の挑戦〜国立大学法人化を超えて〜

佐々木 毅著

東京大学出版会

競争と変革の時代、大学・社会・個人はいかにあるべきか。前東京大学総長からのメッセージ。「知識基盤社会の到来と経済のグローバル化の中で」「国立大学法人化の最前線で」「アジアの中の東大、社会の中の大学」の3部構成。

日本経済新聞 2025/09/20

2006:11./ 264p 978-4-13-003325-1 ¥2,750〔税込〕





私の身体を生きる

西 加奈子、村田 沙耶香、金原 ひとみ、島本 理生、藤野 可織、鈴木 涼美、千早 茜、朝吹 真理子、エリイ、能町 みね子、李 琴峰、山下 紘加、鳥飼 茜、柴崎 友 香、宇佐見 りん、藤原 麻里菜、児玉 雨子 著

文藝春秋

私の身体はどんな視線にさらされ、どのように規定され、内面化されているのか。17 人が自らの「身体」と向き合い、ときに激しく、ときにユーモラスに、かつてない真 撃さで言葉をつむぐ。『文學界』掲載を単行本化。

日本経済新聞 2025/09/20

2024:5./ 229p 978-4-16-391848-8

¥1,650〔稅込〕





大転生時代

島田 雅彦 著

文藝春秋

横溝時雨が再会した中学時代の同級生・三浦杜子春は自分を転生者だと語った。半信半疑で杜子春に関わるうち、時雨は「転生者支援センター」にたどりつき、想像を絶する冒険が始まる-。『文學界』掲載を単行本化。

2024:8./ 284p 978-4-16-391889-1 ¥2,310〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/20



人生、山あり"時々"谷あり(潮文庫 た-14)

田部井 淳子 著

潮出版社

「世界初」の称号と3度の遭難、突然のがん告知と余命宣告、そして東日本大震災の被災地の高校生たちとの富士登山…。女性世界初のエベレスト登頂を果たした登山家・田部井淳子が、山へ挑み続けた人生を綴る。

2025:8./ 175p 978-4-267-02459-7 ¥990〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/20



童謡・愛唱歌の謎~あの唄も、この曲も実は戦争の歌だった~

合田 道人 著

笠間書院

「ウミ」「かもめの水兵さん」「青い眼の人形」…。親しみがあり長く歌われてきた 童謡や唱歌、愛唱歌の中に秘められている戦争の惨さ、蠢く悲しみを見つめ直し、歌 に込められた「平和」への思いを伝える。 2025:8./ 259p 978-4-305-71054-3 ¥1,980〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/20



地図のたのしみ 新装新版

堀 淳一著

河出書房新社

面白い地形、珍しい地名探しから、新旧地形図の比較、鉄道の廃線や経路変更探し、 外国地図の鑑賞まで、地図の極意を披露する。「地図ブーム」の先駆けとなった名 著。地図をすべて製版し直した新装新版。

日本経済新聞 2025/09/20

2012:3./ 275p 978-4-309-22569-2 ¥2,750〔稅込〕



脳をつくる~ロボット作りから生命を考える~

中野 馨 著

共立出版

日本経済新聞 2025/09/20

1995:8./ 235p



阪神ファンとダイビング〜道頓堀と御堂筋の物語〜(祥伝社新書 717)

井上 章一 著

祥伝社

阪神タイガースがセ・リーグ優勝を果たすと、ファンはなぜ川に飛び込むのか。目抜き通り(御堂筋)に引き寄せられた人たちが水辺(道頓堀)に向かうさまから、その理由を読み解く、ユニークな文化論。

2025:9./ 196p 978-4-396-11717-7 ¥1,012〔稅込〕



日本経済新聞 2025/09/20



感情史~歴史学からのメッセージ~

トマス・ディクソン 著

白水社

悲しみや怒り、共感など、私たちが「感情」とみなす精神状態について歴史的に遡って明らかにしながら、それらが「感情」として一括りにされるようになった変遷を浮き彫りにする。

2025:9./ 208p 978-4-560-09190-6 ¥2,530〔稅込〕



日本経済新聞 2025/09/20



現代社会と知の創造~モード論とは何か~(丸善ライブラリー)

マイケル・ギボンズ 著

丸善出版

サリン事件、薬害エイズ問題などの事件・事故が相次ぐなかで、科学技術と社会の関係はどうあるべきなのか。新しいコンセプト「モード」を導入することによって総合的に考えてゆく。

1997:8./ 293p



日本経済新聞 2025/09/20



北朝鮮を読み解く〜コリアウオッチャーの深層時評〜(時事ワールド・ウオッチング・シリーズ 01)

礒﨑敦仁 著

時事通信出版局

独特な論理を構築し、理論武装を図ってきた北朝鮮。なぜ核保有国を正当化するのか、なぜ社会主義を掲げながらも世襲による権力継承にこだわるのか。北朝鮮研究のトップランナーが解き明かす。『時事ドットコム』連載を書籍化。

日本経済新聞 2025/09/20

2025:6./ 261p 978-4-7887-2052-7 ¥2,200〔税込〕





オックスフォードの女性哲学者たち~もうひとつの 20 世紀哲学史~

クレア・マックール、レイチェル・ワイズマン 著 青土社

第二次世界大戦前夜、4人の女性たちが哲学を学びはじめる。4人は戦争の悲惨に直面しつつも、客観的な道徳の基礎を求めて、新たな哲学のあり方を模索しつづけた。 困難な問いに挑んだ女性たちの姿を描くノンフィクション。 2025:7./ 608p 978-4-7917-7725-9 ¥4,950〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/20



軽自動車を作った男〜知られざる評伝鈴木修〜

永井隆 著

プレジデント社

軽自動車をもって、何もなかったインドに自動車産業を作り上げた鈴木修。我が国の 戦後経営史において、希有な経営者だった「小さな巨人」の生涯をたどる。 2025:7./ 349p 978-4-8334-2569-8 ¥2,200〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/20



THINK PUBLIC~世界のクリエイティブは公共の課題に答えを出す~

杉山恒太朗 著

宣伝会議

環境問題、健康、文化保護といった公共の課題に対し、広告はどんな役割を果たせるのか。豊富な知見で事例を解説するとともに、これからの広告の在り方として「THINK PUBLIC」を提言する。

2025:6./ 161p 978-4-88335-628-7 ¥2,200〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/20

ロボットが街を歩く日〜剛い機械から柔らかい機械へ〜(ソフトテクノロジーシリーズ)

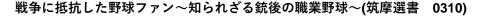
吉川弘之、立花隆 著

三田出版会

日本経済新聞 2025/09/20

1987:2./ 2 3 2 p







山際 康之 著

筑摩書房

すべてが戦争に奉仕させられた時代にも、野球場で選手たちに声援をおくる野球ファンがいた。彼らは何を思い、そこに何を見たのか? これまで語られてこなかった市井の野球ファンの姿に焦点を当て、戦時下の野球文化を描く。

2025:8./ 233p 978-4-480-01829-8 ¥1,980〔稅込〕



日本経済新聞 2025/09/20、東京・中日新聞 2025/09/21



怖くて美しい能の女たち~日本人の美意識の究極のかたち~

林望著

草思社

なぜ女は亡霊になったのか? 信長や秀吉をも惹きつけた能の魅力とはいったい何なのか? 代表的な「女」主人公の曲を題材に、「能」の根源的魅力を解説。世阿弥創始以来滅びず、いまも脈々と生き続ける理由を明らかにする。

2025:8./ 222p 978-4-7942-2790-4 ¥2,090〔稅込〕



日本経済新聞 2025/09/20、東京・中日新聞 2025/09/28



総合診療科の僕が患者さんから教わった 70 歳からの老いない生き方

舛森 悠(Dr.マンデリン) 著

KADOKAWA

運動よりも仲間とおしゃべり、7時間も無理に寝なくていい、認知症でも社会生活は可能…。総合診療科の医師が患者から教わった、「年齢を重ねても、健康に幸せによりよく生きるために役立つこと」を厳選して紹介する。

2024:1./ 223p 978-4-04-606702-9 ¥1,650〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/27



絵の音

大竹 伸朗 著

新潮社

地上のありとあらゆるものを画材に、圧倒的な質・量の作品を生み出し続ける国際的画家・大竹伸朗。その無尽蔵のモチベーションの秘密とは何か?7年間の思索と旅をまとめる。『新潮』連載を書籍化。

2025:8./ 409p 978-4-10-431005-0 ¥3,575〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/27



記憶するチューリップ、譲りあうヒマワリ~植物行動学~

ゾーイ・シュランガー 著

早川書房

水分が不足すると音を出すトマト、虫に食べられるとその虫の天敵を呼ぶトウモロコシ…。それは自然な現象か、あるいは植物が意図的に引き起こしているのか? 最新の植物行動学の見地から、生物の「知性」や「主体性」に迫る。

2025:8./ 332p 978-4-15-210455-7 ¥3,410〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/27



ル・ペン家の人びと〜三世代でたどるフランス極右の実像〜

本間 圭一 著

創元社

フランス極右を体現するル・ペン一族の知られざる物語。フランスの国民戦線の創設者ジャン=マリ、三女マリーヌ、孫マリオン・マレシャル。三世代の政治家の独自インタビューの肉声を交え、極右運動の歴史・現在・未来を読む。

日本経済新聞 2025/09/27

2025:8./ 320p 978-4-422-36022-5 ¥3,520〔税込〕





斜め論~空間の病理学~

松本 卓也 著

筑摩書房

ビンスワンガー、中井久夫、上野千鶴子、信田さよ子、当事者研究、ガタリ、ウリ、 ラカン、ハイデガーらの議論をもとに、精神病理学とそれにかかわる人間観の変遷を 跡付け、「斜め」の理論をひらいていこうとする試み。 2025:8./ 316p 978-4-480-84333-3 ¥2,420〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/27



"女は自衛しろ"というならば~女性による反撃は正当か?~

エリザベス・フロック 著

明石書店

アメリカ、インド、シリアで、男(社会)からの攻撃に武力で反撃した3人の女性。彼女たちがとった行動は、結局のところ彼女たちを救ったのか、それとも逆に傷つけたのか。その結果、制度に何らかの変化はあったのかを問う。

2025:7./ 420p 978-4-7503-5964-9 ¥2,750〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/27



70 歳を越えたらやめたい 100 のこと~やめると人生ラクになる~

中山庸子 著アスコム

家計簿、重いフライパン、無理して入る風呂、法事、終活、世間体…。身の回りのあれこれのなかで、やめていいことを 100 個ピックアップ。しがらみや物から自分を解放し、70 歳からの人生をスッキリさせることを提案する。

2024:6./ 239p 978-4-7762-1351-2 ¥1,540〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/27



アイドル・オーディション研究~オーディションを知れば日本社会がわかる

 \sim

太田 省一/塚田 修一/辻 泉 著

青弓社

日本のアイドル・オーディション番組の変遷をたどり、世界のオーディションの特徴も俯瞰・整理して、選別の力学やジェンダーをめぐる不均衡、ファンによる消費の実態を明らかにする。オーディション番組年表も収録。

2025:9./ 319p 978-4-7872-7476-2 ¥3,080〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/27



イル・コミュニケーション〜余命 5 年のラッパーが病気を哲学する〜(叢書 クロニック)

ダースレイダー 著 ライフサイエンス出版

脳梗塞、糖尿病、慢性腎不全、代謝性アシドーシス、左目の失明…。余命 5 年のラッパーが HIPHOP と古今東西の思想をつなぎ、「病気とは、生きるとは何か」を語る。

日本経済新聞 2025/09/27

2023:11./ 253p 978-4-89775-471-0 ¥2,200〔税込〕





読むだけでわかる 70 歳からのスマホのアレコレ~図解よりかんたん!~

口著

repicbook

インターネット、カメラ、QR コード、LINE、メール、パスワード…。70 代以上の 人に向けて、スマホを使いこなせるようになる方法を、図解なしでわかりやすく解説 する。 2025:7./ 159p 978-4-908154-55-3 ¥1,595〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/27



スライ・ストーン自叙伝 \sim サンキューまたおれでいられることに \sim (ele - king books)

スライ・ストーン 著

Pヴァイン

黒人音楽のルールを完全に変え、ブラック・ポリティクスをポップスに流し込み、時 代の頂点に立ったスライ・ストーン。音楽界の風雲児が、その作品や波乱に満ちた人 生を赤裸々に語る。 2025:7./ 479p 図版 16p 978-4-910511-95-5 ¥3,520〔税込〕



日本経済新聞 2025/09/27



失われた貌

櫻田 智也 著

新潮社

山奥で、顔を潰され、歯を抜かれ、手首から先を切り落とされた死体が発見された。 事件報道後、警察署に小学生が訪れ、死体は「自分のお父さんかもしれない」と言う。彼の父親は 10 年前に失踪し、失踪宣告を受けていた...。 2025:8./ 297p 978-4-10-356411-9 ¥1,980〔税込〕



毎日新聞 2025/09/01、読売新聞 2025/09/28



ピノッキオの冒険 新版(岩波少年文庫 77)

カルロ・コッローディ 著

岩波書店

言葉を話す木から人形を作ったジェッペットじいさんは、それにピノッキオと名づけてかわいがります。やがてピノッキオは旅に出ます…。イタリアの代表作として世界中の子どもたちに親しまれてきた物語。58年初版の新版。

2000:12./ 329p 978-4-00-114077-4 ¥836〔税込〕



毎日新聞 2025/09/06



ネコは<ほぼ>液体である~ネコ研究最前線~

服部 円著

KADOKAWA

段ボールに入るとストレスが軽減していた、遺伝子にマグロ好きが刻まれている、おもちゃ・食べ物よりも人との触れ合いを好む…。イグ・ノーベル賞を含む、ネコについてのユニークな研究を紹介。『sippo』連載を加筆修正。

978-4-04-116049-7 ¥1,760〔税込〕

2025:7./ 221p





Cloud on the 空き家

小池 昌代 著

講談社

天涯孤独の身となったわか子は、空き家管理の仕事をすることになった。死の匂いの する空き家でわか子は、青年・融と出会い...。生き死にの極限に迫る恋愛小説。『群 像』掲載を加筆修正、改題。

2025:7./ 211p 978-4-06-540143-9 ¥2,475〔稅込〕



毎日新聞 2025/09/06



市村弘正著作集<上巻>

市村 弘正 著 集英社

丸山眞男と藤田省三の水脈に立つ思想史家・市村弘正の全仕事を集成。上巻は、 「「名づけ」の精神史」「標識としての記録」「小さなものの諸形態 精神史覚え 書」の3冊を収録。

2025:3./ 432p 978-4-08-789019-8 ¥3,960〔稅込〕



毎日新聞 2025/09/06



市村弘正著作集<下巻>

市村 弘正 著 集英社

丸山眞男と藤田省三の水脈に立つ思想史家・市村弘正の全仕事を集成。下巻は、「敗 北の二十世紀」「読むという生き方」のほか、単著未収録の論考などを収録。

2025:4./504p 978-4-08-789020-4 ¥4,180〔稅込〕



毎日新聞 2025/09/06



となりのヤマダ君~小さくて足が遅くてケガの多い 35 歳のサッカー選手~

山田A子/山田直輝 著

徳間書店

小さくて足が遅くてケガばかりでも、35歳の今も現役を続けているプロサッカー選 手・山田直輝。彼が闘い続けるのをとなりで見てきた妻と本人が、ふたりと家族のこ れまでを交互に綴る。

2025:7./ 237p 978-4-19-866030-7 ¥1,980〔稅込〕



毎日新聞 2025/09/06



いま、日本は戦争をしている~太平洋戦争のときの子どもたち~

堀川理万子 著

小峰書店

太平洋戦争中、子どもたちは日々、何を感じながら暮らしていたのか。空襲、原爆、 地上戦、引き揚げ、疎開...。子どもたちの語りを通して戦争の理不尽とリアルを伝え る絵本。

¥4,180〔稅込〕

2025:7./ 127p

978-4-338-02210-1





列車で行こう!JR+私鉄観光列車大図鑑

櫻井寛 著

世界文化社

北海道から九州まで、著者の櫻井寛が完乗した観光列車のうち、2025 年 6 月現在で運行している JR+私鉄の観光列車 159 列車とクルーズトレイン 4 列車を紹介。列車データや地図も掲載。『毎日小学生新聞』連載に加筆修正。

2025:7./ 383p 978-4-418-25216-9 ¥3,960〔税込〕



毎日新聞 2025/09/06



ハイエク入門(ちくま新書 1859)

太子堂 正称 著

筑摩書房

20 世紀に屹立する偉大な思想家 F・ハイエクの多岐にわたる業績の全体像を整理 し、現代思想の水脈に配置。その独創性に肉薄して、思想の輪郭を大きくえがく。 2025:5./ 480p 978-4-480-07689-2 ¥1,430〔税込〕



毎日新聞 2025/09/06



だいたいしあわせ

阿川佐和子 著

晶文社

どんなに足腰痛くても、ほんのちょっと笑ったら、まあ、いいか、ルンルルン! 痛いところに貼ると効果抜群の、アガワ流・心の湿布薬。日々を楽しく過ごすコツが満載。『北國新聞』等連載から 56 話をまとめて単行本化。

2025:5./ 230p 978-4-7949-7475-4 ¥1,760〔稅込〕



毎日新聞 2025/09/06



本が大好きになる図書館の使い方~読書を最高のエンターテインメントに~

つのだ由美こ 著

秀和システム新社

図書館は人生を彩るプレイスポット! 図書館や司書が出てくる映画「図書館映画」を多数紹介。シーンの説明や制作の裏話とともに、実際の図書館でおこなわれている事例や楽しい使い方も教える。

2025:5./ 239p 978-4-7980-7384-2 ¥1,760〔稅込〕



毎日新聞 2025/09/06



転がる石のように〜揺れるジャーナリズムと軋む表現の自由〜

山田健太 著

田畑書店

SNS 等の擡頭によって、従来のジャーナリズムは果たして"オワコン"に堕するのか? メディアの現在とこれからの展望を拓く。『東京新聞』『琉球新報』連載などを書籍 化。「愚かな風」の続編。 2025:4./ 362p 978-4-8038-0459-1 ¥2,750〔稅込〕





元裁判官が語る人生の気づきと選択のことば 138

吉戒 修一 著

恒春閣

人生の節目、節目で気づきがあり、選択がある。元東京高等裁判所長官である著者が、法曹としての激動の人生と、それを支えた周囲の人たちのことばの数々をエピソードを交えて紹介する。

2025:7./ 336p 978-4-910899-27-5 ¥2,970〔税込〕



毎日新聞 2025/09/06



戦争と漫画 戦地の物語(ちくま文庫 や50-9)

山田 英生 編

筑摩書房

死の行軍、沖縄戦、慰安婦、引揚…。漫画家は「戦争」をどう描いたか。楳図かずお「死者の行進」、石坂啓「突撃一番」など、戦地の兵士や女性、子どもたちの物語を収録したアンソロジー。巻末に吉田裕のエッセイを掲載。

2025:6./ 383p 978-4-480-44037-2 ¥1,034〔税込〕



毎日新聞 2025/09/06、読売新聞 2025/09/14



戦争と漫画 銃後の物語(ちくま文庫 や50-10)

山田 英生 編

筑摩書房

戦地だけが戦場ではない。出征、疎開、空襲、困窮する生活、平穏な日常は刻々と蝕まれていった…。大島弓子「七月七日に」、水木しげる「村の朝鮮人」など、銃後の物語を描いたアンソロジー。巻末に中島京子のエッセイを掲載。

2025:7./ 388p 978-4-480-44042-6 ¥1,056〔税込〕



毎日新聞 2025/09/06、読売新聞 2025/09/14



戦争と漫画 焦土の記憶(ちくま文庫 や 50-11)

山田 英生 編

筑摩書房

敗戦後の混乱、遺族の哀しみ、後世への継承…。漫画家は「戦争と戦後」をどのように描いたのか。手塚治虫「すきっ腹のブルース」など、戦争が遺した傷と記憶を描いたアンソロジー。巻末に藤原辰史のエッセイを掲載。

2025:8./ 378p 978-4-480-44045-7 ¥1,034〔稅込〕



毎日新聞 2025/09/06、読売新聞 2025/09/14



生きることでなぜ、たましいの傷が癒されるのか〜紛争地ルワンダに暮らす 人びとの民族誌〜

大竹 裕子 著

白水社

1990年代の内戦と虐殺、殺戮からルワンダの人びとはどのようにして回復してきたのか。政府から抑圧され、国際支援の枠組みからもこぼれ落ちた地方の農村の住民たちに光を当て、彼らの体験と記録を丁寧に描き出す。

毎日新聞 2025/09/06、読売新聞 2025/09/28

2025:7./ 388p 978-4-560-09170-8 ¥3,080〔税込〕





トピーカ・スクール

ベン・ラーナー 著

明庭社

1997年、カンザス州トピーカ。競技ディベートの名手である高校生・アダム、母の 葛藤と彼女が闘ったトピーカの「男たち」、父が心の奥底に隠した弱さ。複数の声が 時代を行き来しながら、米国の現在を照らし出す-。

2025:7./377p 978-4-9914179-0-0 ¥3,190〔稅込〕



毎日新聞 2025/09/06、日本経済新聞 2025/09/20



文化が違えば、心も違う?~文化心理学の冒険~(岩波新書 新赤版 2078)

岩波書店

日本人は協働的でアメリカ人は個人主義? このような違いはどこから生まれ、文化と 心にはどのような関係があるのか。多様な知見を駆使して人間の心のメカニズムを解 明する、文化心理学の最先端の試みを紹介。

2025:8./ 232p 978-4-00-432078-4 ¥1,034〔稅込〕



毎日新聞 2025/09/13



空海

安藤 礼二 著

講談社

日本固有の宗教、文化、芸術表現の大いなる源泉…「空海」とは何者なのか。日本思 想史上最大のオリジネーター/スーパースター空海の思想を解きほぐし、生の軌跡を 明らかにする記念碑的大著。『群像』連載を加筆修正。

2025:5./558p 978-4-06-539482-3 ¥4,950〔稅込〕



毎日新聞 2025/09/13



沈黙を破る~「男子の性被害」の告発者たち~

秋山 千佳 著

文藝春秋

日本社会では長年"なかったこと"にされてきた男性の性被害。加害者は、担任教師、 実父、芸能事務所社長...。立ち上がった性被害者たちの実名告白ノンフィクション。 『文藝春秋』連載他を単行本化。

2025:7./255p 978-4-16-391996-6 ¥1,870〔稅込〕



毎日新聞 2025/09/13



天下の値段~享保のデリバティブ~

門井 慶喜 著

文藝春秋

時は江戸時代、大坂堂島で特に盛んだったのが先物取引。幕閣は堂島を支配すべく動 き出すのだが…。市場の自治を守らんとする大坂商人たちと、武士の誇り(とお金)を 懸けた江戸幕府との頭脳戦。『別冊文藝春秋』掲載を書籍化。

¥1,980〔稅込〕

978-4-16-392002-3

2025:8./ 415p





赤毛のアン

ルーシイ=モード=モンゴメリ、岸田 衿子、安野 光雅 著朝日出版社

風光明媚な島の自然から多くのものを受け取り、心優しい人々との魂の触れ合いを通して、アンは成長し…。名作文学「赤毛のアン」を、詩人であり童話作家であった岸田衿子渾身の訳と、画家・安野光雅の叙情豊かな絵で贈る。

2018:6./ 507p 978-4-255-01068-7 ¥3,080〔税込〕



毎日新聞 2025/09/13



熊になったわたし~人類学者、シベリアで世界の狭間に生きる~

ナスターシャ・マルタン 著

紀伊國屋書店出版部

カムチャツカの森で先住民族を研究するフランスの人類学者が、熊に襲われて大けが を負う。その日を境に西洋とシベリアの世界観、人間と獣の世界の境界が崩壊し…。 九死に一生を得た人類学者の変容と再生の軌跡。 2025:8./ 206p 978-4-314-01211-9 ¥2,200〔稅込〕



毎日新聞 2025/09/13



深海の闇の奥へ〜生物発光に魅せられた海洋学者の冒険〜

エディス・ウィダー 著

紀伊國屋書店出版部

太陽光の届かない<闇の縁>の先に、生死をかけて光を放つ無数の生き物たちがいる -。世界初、生きたダイオウイカの撮影に成功した女性海洋生物学者が、地球最後のフロンティア<深海>に潜む謎に挑んだ 40 年の軌跡を綴る。

2025:8./ 461p 図版 16p 978-4-314-01215-7 ¥3,300〔税込〕



毎日新聞 2025/09/13



敗戦日記(ちくま学芸文庫 ワ 18-1)

串田 孫一/二宮 敬 編

渡辺 一夫 著

筑摩書房

国家への絶望と希望の間で揺れ動く知識人が、1945年3月11日から11月22日まで、日本が敗戦へと向かう様子、戦後数カ月の状況をフランス語で綴った日記。全文の翻訳に、串田孫一宛書簡と関連の文章15篇を収録。

2025:7./ 306p 図版 32p 978-4-480-51309-0 ¥1,540〔税込〕



毎日新聞 2025/09/13



浜木綿子楽しく波瀾万丈

小玉祥子 著

JTB パブリッシング

不幸に負けない。負けるのは最大の不幸-。70年以上にわたり人生の荒波にひるむことなく笑顔で舞台に立ち続けた女優・浜木綿子。生い立ちから、宝塚歌劇団入団、東宝入り、結婚、家族のことまで、その90年の歩みを語る。

毎日新聞 2025/09/13

2025:7./ 251p 978-4-533-16675-4 ¥2,530〔税込〕





野に遺賢をさがして~ニッポンとことこ歩き旅~

森 まゆみ 著

亜紀書房

地域をよくするため奮闘した茅ケ崎の藤間柳庵、民衆の側から私擬憲法を夢みた五日市の深沢権八…。聞き書きの名手が日本中を気ままに歩き、地道で豊かな歴史を掘り起こした 17 本の旅の記録。大正大学『地域人』連載を書籍化。

2025:5./ 253p 978-4-7505-1875-6 ¥2,200〔税込〕



毎日新聞 2025/09/13



13歳からの世界遺産~偉人のエピソードで見え方が変わる!~

宮澤光 著

マイナビ出版

アンネ・フランクが日記を書き始めたのは 13 歳、ラメセス 2 世がパスポートを取得したのは 3279 歳…。あなたと同じ年齢の時、あの偉人は何をしていた? 偉人の年齢を通したエピソードで、世界遺産を紹介する。

2025:7./ 152p 978-4-8399-8980-4 ¥1,980〔税込〕



毎日新聞 2025/09/13



いのちの聲~にっぽん列島~

鈴木 一雄 著 風景写真出版

小さな虫から鳥類、魚類、爬虫類・両生類、そしてヒグマまでの 55 種を被写体とし、身近な場所で共存している生きものたちの姿を鮮烈に伝える写真集。96 点の作品をノートリミングで収録する。

2025:8./ 175p 978-4-903772-87-5 ¥4,950〔税込〕



毎日新聞 2025/09/13



「九月」を生きた人びと~朝鮮人虐殺の「百年」~

加藤 直樹 著

ころから

関東大震災時の朝鮮人虐殺に関わって著者が書いた文章や講演の記録を集成。**1923** 年の大震災発生前の東アジア状況から、虐殺事件 **50** 周年に建立された追悼碑のいき さつ、ヘイトデモの勃興と抵抗まで描く。 2025:9./ 201p 978-4-907239-81-7 ¥1,980〔稅込〕



毎日新聞 2025/09/13



縄文~革命とナショナリズム~

中島 岳志 著

太田出版

戦後日本は何につまずき、いかなる願望を「縄文」に投影したのか。戦後の縄文言説を追った、戦後日本人の新たな精神史。Web マガジン『OHTABOOKSTAND』連載を加筆修正、書き下ろしを加える。

2025:6./ 429p 978-4-7783-1972-4 ¥3,080〔税込〕



毎日新聞 2025/09/13、読売新聞 2025/09/14、朝日新聞 2025/09/20



戦争と法~命と暮らしは守られるのか~(岩波新書 新赤版 2069)

永井 幸寿 著

岩波書店

もし日本が武力攻撃を受けた場合、日常はどうなるのか。国は国民を守ってくれるのか。緊急事態に関するさまざまな法制度、そして戦争がもたらす被害をリアリズムに即して見つめ直し、現実認識を鋭く問い直す。

2025:6./ 270p 978-4-00-432069-2 ¥1,166〔税込〕



毎日新聞 2025/09/20



ショスタコーヴィチ~引き裂かれた栄光~(岩波現代文庫 文芸 371)

亀山 郁夫 著

岩波書店

ロシア革命、大テロル、世界大戦、スターリン独裁…。激動の 20 世紀ソ連を、芸術家はどう生きのびたのか。ロシア音楽史の中で最も激しい毀誉褒貶にさらされる作曲家、ショスタコーヴィチの生涯を描く。

2025:8./ 586p 978-4-00-602371-3 ¥2,046〔税込〕



毎日新聞 2025/09/20



ほんまにオレはアホやろか(講談社文庫 み 36-16)

水木 しげる 著

講談社

子供の頃から勉強嫌い。戦争で片腕を失い、九死に一生を得るも赤貧時代が待っていた-。ユーモラスな文章の中に独特で深淵な「幸福哲学」が隠された、水木しげるのおとぼけ自伝。オリジナルイラストカード付き。

2016:4./ 249p 978-4-06-293369-8

¥704〔稅込〕



毎日新聞 2025/09/20



テクノ専制とコモンへの道〜民主主義の未来をひらく多元技術 PLURALITY とは?〜(集英社新書 1269)

李 舜志 著

集英社

「PLURALITY」を参照しつつ、テクノロジーと民主主義の持つポテンシャルについて検討。オードリー・タンらのアイデアに理論的な補助線を引きつつ、日本の文脈も組み込んで、多元的な未来を説得的に描き出す。

2025:6./ 261p 978-4-08-721369-0 ¥1,188〔稅込〕



毎日新聞 2025/09/20



論語(光文社古典新訳文庫 KB ツ 2-1)

鶴ヶ谷真一 著

光文社

日々のいとなみと人間性への理解が、簡潔かつなだらかに綴られた「論語」を、世界 文学史的な視点からの現代語訳、読み下し文、漢文、訳注・補注を付して収録する。 「生きるヒントとなる索引」と「人名・語句索引」付き。

毎日新聞 2025/09/20

2025:9./ 675p 978-4-334-10774-1





さみしくてごめん

永井 玲衣 著

大和書房

わたしはいつまでも驚いていたい。こわがっていたい。絶望して、希望を持ちたい。 この世界から遊離せずに、それをしつづけたい。世界にはまだまだ奥行きがあるのだ から・。哲学者・永井玲衣のエッセイ。 2025:6./ 235p 978-4-479-39453-2

¥1,760〔稅込〕



毎日新聞 2025/09/20



渡来人とは誰か〜海を行き交う考古学〜(ちくま新書 1874)

高田 貫太 著

筑摩書房

今から 1600 年ほど前、倭の王権と各地の有力者は朝鮮半島と交渉を重ね、みずからの治める地に渡来人を招き寄せ、また朝鮮半島に渡った倭人もいた。こうした渡来人の姿から、古代の相互交流の実像にせまる。

2025:8./ 359p 978-4-480-07693-9

¥1,320〔税込〕



毎日新聞 2025/09/20



一銭五厘たちの横丁(ちくま文庫 **こ 59-1**)

児玉 隆也 著

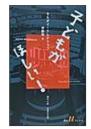
筑摩書房

99 枚の「氏名不詳」家族写真から、あの戦争が見えてくる-。桑原甲子雄が撮影した留守家族たち、一銭五厘のハガキで出征してその写真を受け取った横丁の兵士たちの戦中・戦後を記録したルポルタージュの名著。

2025:6./ 281p 978-4-480-44039-6 ¥1,100〔税込〕



毎日新聞 2025/09/20



子どもがほしい!(白水 U ブックス 海外小説永遠の本棚 263)

セルゲイ・トレチヤコフ 著

白水社

色恋に関心がない女性共産党員のミルダは、「子どもがほしい」という欲望をもっている自分に気づく。良質な精子を提供できるだろうとの見立てのもと、優秀なヤコフを誘い…。1920年代のソ連が舞台の演劇史上の問題作。

2025:8./ 291p 978-4-560-07263-9 ¥2,090〔税込〕



毎日新聞 2025/09/20



アボリジナル・メッセージ

飯島浩樹 著

扶桑社

自然と調和しながら暮らし、時空を超えた時間軸を生きているオーストラリアの先住 民「アボリジナル」。彼らの文化、世界観、考え方、生活様式を紹介しながら、人類 最古の叡智を伝える。

毎日新聞 2025/09/20

2025:6./ 174p 978-4-594-09954-1 ¥1,760〔税込〕





をとめよ素晴らしき人生を得よ~女人短歌のレジスタンス~

瀬戸 夏子 著

柏書房

1949 年に結成された女性だけの超結社「女人短歌会」と歌誌『女人短歌』。その周辺で歌を詠み続けた女性歌人たちの戦いとシスターフッドを描く。精選 120 首を収めたアンソロジー付き。柏書房公式 note 連載を加筆修正。

2025:7./ 254p 978-4-7601-5636-8 ¥2,090〔税込〕



毎日新聞 2025/09/20



日本のすごい祭り〜残したい!知られざる祭礼・行事の数々〜(イカロス MOOK)

イカロス出版

金沢の羽山ごもり、新居浜太鼓祭り、千本ゑんま堂大念仏狂言、六郷のカマクラ行事…。人々の祈りが息づく日本のユニークな祭礼・行事を写真とともに紹介する。知っているとさらに楽しめるお祭り用語辞典も収録。

2025:7./ 112p 978-4-8022-1614-2 ¥1,980〔税込〕



毎日新聞 2025/09/20



仕事の壁はくぐるのだ

川島 蓉子 著

ミシマ社

「負けそうなときは、むしろ踏み込む」「仕事のお値段」「ちゃぶ台返し部長との果し合い」…。ブランディングディレクター、ライターとして活躍し、現役のままに急逝した著者が綴り遺した、仕事と、生きることの秘訣。

2025:8./ 237p 978-4-911226-23-0 ¥1,980〔税込〕



毎日新聞 2025/09/20



ケアの物語〜フランケンシュタインからはじめる〜(岩波新書 新赤版 2071)

小川 公代 著

岩波書店

「フランケンシュタイン」を起点に、生命を軽視し、弱者を蹂躙する強者の物語に対して、権力をもたない「アウトサイダー」たちの物語がいかに軽視されてきたかを、 文学や映画を例に挙げながら論じる。『世界』連載を書籍化。 2025:6./ 302p 978-4-00-432071-5 ¥1,100〔税込〕



毎日新聞 2025/09/27



哲学史入門<4> 正義論、功利主義からケアの倫理まで(NHK 出版新書 750)

斎藤 哲也 編

古田 徹也、児玉 聡、神島 裕子、立花 幸司、岡野 八代、ブレイディ みかこ 著 NHK出版

第一人者への「聞き書き」から西洋哲学史の大きな見取り図を示す。4 は、アリストテレスからカント、ピーター・シンガーまで、倫理学の主要な思想家・ジャンルに迫る。アナキズムと倫理のつながりに迫る特別章も収載。

毎日新聞 2025/09/27

2025:9./ 300p 978-4-14-088750-9 ¥1,265〔税込〕





日清食品をぶっつぶせ~自ら創造し、自ら破壊せよ~

安藤徳隆/竹居智久 著

日経BP社

マーケティング、新規事業、自らの原動力、3代目としての覚悟…。クリエイティブの力を信じて、日清食品のユニークさを磨き上げてきた日清食品社長・安藤徳隆が、自らの思いを余すことなく語る。

2025:8./ 239p 978-4-296-20514-1 ¥1,870〔税込〕



毎日新聞 2025/09/27



学校はここまで変えられる!〜授業・入試・不登校支援。「子ども視点」で動かした改革のリアル〜

平川 理恵 著

大和書房

時間割を自分で決める小学校、公立初の IB 校、内申書から出欠席と所見を廃止、県立フリースクール設立…。前広島県教育長が行った、怒涛の改革を紹介する。

2025:8./ 303p 978-4-479-39460-0 ¥1,980〔税込〕



毎日新聞 2025/09/27



「頑張れない」子をどう導くか〜社会につながる学びのための見通し、目的、使命感〜(ちくま新書 1858)

宮口 幸治/田中 繁富 著

筑摩書房

目の前にいる頑張れない子をどう理解してどう導けばいいのか。児童精神科医と現役の小学校教諭が、やる気に導く3つの鍵「見通し」「目的」「使命感」を提示し、大人ができる環境の整え方、導き方を具体的にアドバイスする。

2025:5./ 167p 978-4-480-07686-1 ¥990〔税込〕



毎日新聞 2025/09/27



涙の箱

ハン・ガン 著

評論社

ある村にひとりの子どもが住んでいた。その子は、みんながまるで予測も理解もできないところで涙を流した。ある日、涙を集めている男が、子どもを訪ねてきて…。ノーベル文学賞作家ハン・ガンがえがく、大人のための童話。

2025:8./ 85p 978-4-566-02489-2 ¥1,650〔税込〕



毎日新聞 2025/09/27



ペリリュー-外伝-<4>(ヤングアニマル COMICS)

武田 一義 著 白泉社 毎日新聞 2025/09/27 2025:7./ 144p 978-4-592-16369-5 ¥880〔税込〕





仁科芳雄~「原爆を作ろうとした物理学者」がみたもの~

上山明博 著

青土社

戦中、原爆開発を秘密裏に進めていた「日本の現代物理学の父」、仁科芳雄。その生涯を追い、ほとんど語られることのない日本の原子爆弾の開発をめぐる物語の端緒と全容をたどり、科学と平和を考える評伝ノンフィクション。

2025:4./ 262p 978-4-7917-7711-2 ¥2,860〔税込〕



毎日新聞 2025/09/27



世界のほうがおもしろすぎた~ゴースト・イン・ザ・ブックス~

松岡正剛 著

晶文社

ぼくが目指したことは、すべて編集です-。異能の編集工学者・松岡正剛が、謎に包まれたその生涯と秘策をロングインタビューで一気に語り明かした、最初で最後の「自伝」。未発表原稿、年譜も掲載する。

2025:8./ 399p 978-4-7949-8010-6 ¥2,090〔税込〕



毎日新聞 2025/09/27



世界自炊紀行

山口祐加 著

晶文社

日本人にとっての「いつものごはん」が「納豆ご飯と味噌汁」だとするならば、世界各地の人々にとっての「いつものごはん」はどのようなものだろう。12 か国を取材し、24 組の家庭の自炊事情を12 種のレシピとともに紹介。

2025:8./ 554p 図版 8 枚

978-4-7949-8012-0 ¥2,750〔税込〕



毎日新聞 2025/09/27



あきらめる勇気~「見えなくなった」僕を助けてくれたのは~

松永 信也 著

法蔵館

見えない仲間、見えにくい仲間、見える人たち。さまざまな人生との出会いは、僕に幸せの意味や人間の価値を考えさせてくれた-。難病で視覚を失った著者が、「見えない」世界を伝える。ブログをもとに書籍化。

2024:12./ 126p 978-4-8318-5620-3 ¥1,540〔税込〕



毎日新聞 2025/09/27



百書繚乱〜松岡正剛のヴィジュアルブックガイド〜

松岡 正剛 著

アルテスパブリッシング

写真・デザインを駆使して古今東西の書籍を案内する、松岡正剛のヴィジュアルブックガイド。100 テーマ・500 冊超をフルカラーで収録。『SANKEI EXPRESS』連載を書籍化。人名・書名索引付き。

毎日新聞 2025/09/27

2025:8./ 455p 978-4-86559-316-7

¥5,280〔稅込〕





満月が欠けている~不治の病・緑内障になって歌人が考えたこと~(叢書クロニック)

2025:7./ 250p 978-4-89775-492-5 ¥2,200〔税込〕



穂村弘 著 ライフサイエンス出版

子ども時代から目が弱かった著者が、持病である緑内障とその周辺を語ったライフストーリー。著者による「瞳を巡る短歌」の解説や、主治医との対談、長年の友人である精神科医と病気、生と死について語り合った対談を収録する。